

令和4年度安芸地域アクションプランの  
追加、削除、拡充等（予定項目）

安 芸 地 域 本 部

令和4年2月10日（木）



# 令和4年度地域アクションプランの追加・削除等（予定項目）

## 地域アクションプランへの支援の方向性

新規事業の掘り起こしと担い手の育成、事業が抱える課題の解決を図りながら、地域アクションプランの実現に向けて、産業振興推進地域本部を中心に取り組みを推進していく。

### (1) 新規事業の掘り起こしと担い手の育成

- ①発掘支援型アドバイザーと連携して、地域アクションプランへの位置付けを目指す取り組みを掘り起こし
- ②地域が主体となって実施するビジネス研修への支援により、産業振興の取り組みを牽引する担い手を育成

### (2) 課題解決に向けた支援

- ①課題解決型アドバイザーと連携して、個別課題の解決を支援
- ②課題一貫支援型アドバイザーと連携して、地域への経済波及効果が大きい案件に対し、全体的な課題の整理・分析及び解決策の検討を一貫して支援

## 地域アクションプランの増減（▲4）

### (1) 追加（新規）： 2件

- 須崎市養殖漁業等のさらなる振興（須崎市）
- 浦ノ内マリパークにおける交流人口の拡大による地域の活性化（須崎市）

### (2) 削除（廃止）：▲5件

- 南国市の農園レストランによる地域食材の消費拡大（南国市）
- JA出資型法人（株れいほく未来）を核とする地域活性化の取り組み（土佐町）
- 四万十川源流等中山間資源活用ビジネスの創出（中土佐町）
- 須崎市立スポーツセンターを活用した体験型観光等の推進による地域の活性化（須崎市）
- 須崎市の教育旅行や団体旅行の誘致に向けた体制の整備（須崎市）

### (3) 追加（分割）： 0件

### (4) 削除（統合）：▲1件

- 中土佐町地域ブランドの創出と販売促進（中土佐町）
- 中土佐町の「うまいもん食わしちやお」商品開発プロジェクト（中土佐町）  
→「中土佐町地域ブランドの創出と販売」として統合

## 地域アクションプラン数 R3年度 224件 → R4年度 220件（▲4）

	R3年度 (第4期Ver.2)	R4年度 (第4期Ver.3)				A P 数
	A P 数 R3.9月時点	増減				
		追加	削除	統合・分割	計	
安芸	30					30
物部川	26		▲1		▲1	25
高知市	23					23
嶺北	25		▲1		▲1	24
仁淀川	34					34
高幡	42	2	▲3	(2→1) ▲1	▲2	40
幡多	44					44
合計	224	2	▲5	▲1	▲4	220

○地域産業クラスタープロジェクト R3年度 19件 → R4年度 18件（▲1）



## 安芸地域アクションプランの追加・削除・拡充等（予定項目）

### ■追加

なし

### ■削除

なし

### ■その他（拡充、統合、分割）

なし

## 安芸地域アクションプラン項目（第4期計画Ver. 2（R3年度）と

No.	現在(令和3年度)	室戸市	安芸市	東洋町	奈半利町	田野町	安田町	北川村	馬路村	芸西村
		11	5	9	7	7	8	4	5	6
1	安芸地域のユズを中心とした中山間振興	●	●	●	●	●	●	●	●	●
2	日本一のナス産地拡大クラスタープロジェクト	●	●	●	●	●	●			●
3	ポンカンの加工品開発と後継者確保による地域振興			●						
4	芸西村の白玉糖による地域活性化									●
5	土佐備長炭の生産・出荷・販売体制の強化	●		●						
6	馬路の林業加工品の販売促進								●	
7	芸東地域の水産物の付加価値向上と販路拡大	●		●	●	●	●			
8	室戸海洋深層水による地域産業の推進	●								
9	キラメッセ室戸「楽市」を核とした地産地消・外商の拡大	●								
10	室戸市中心市街地の活性化	●								
11	安芸本町商店街を中心とする地域の活性化		●							
12	海の駅東洋町を拠点とした地域振興			●						
13	有害鳥獣等を活用したペットフードの開発と販路開拓			●						
14	地域食材を活用した奈半利町の特産品の開発及び販路拡大				●					
15	田野町の完全天日塩を活用した産業振興及び観光への活用					●				
16	道の駅「田野駅屋」の機能強化に向けた取り組み					●				
17	やすだ資源を活かした6次産業化事業の推進						●			
18	地場産品直販所「かっぱ市」等による地域活性化									●
19	安芸地域の観光振興の推進	●	●	●	●	●	●	●	●	●
20	日本遺産を活用した中芸地域の活性化				●	●	●	●	●	
21	室戸市の観光資源を活かした交流人口の拡大・地域振興	●								
22	岩崎弥太郎や地域食材等を活用した観光の推進		●							
23	東洋町における体験型・滞在型観光の推進	●		●						
24	奈半利町の観光施設の誘客強化による交流人口の拡大				●					
25	安田川アユおどる清流キャンプ場の再整備による交流人口の拡大と地域の活性化						●			
26	北川村観光3施設の誘客強化による交流人口の拡大							●		
27	椎名集落活動センターたのしいなを拠点とした室戸市椎名地区の活性化	●								
28	集落活動センターなかやまを拠点とした安田町中山地区の活性化						●			
29	集落活動センターやなせを拠点とした馬路村魚梁瀬地区の活性化								●	
30	集落活動センターげいせいを拠点とした”小さくてももっと元気で輝くむら”づくり									●

# 第4期計画Ver.3 (R4年度) の対比表

【安芸地域】

室戸市	安芸市	東洋町	奈半利町	田野町	安田町	北川村	馬路村	芸西村	No.	改定案(令和4年度)
11	5	9	7	7	8	4	5	6		
●	●	●	●	●	●	●	●	●	1	安芸地域のユズを中心とした中山間振興
●	●	●	●	●	●			●	2	日本一のナス産地拡大クラスタープロジェクト
		●							3	ポンカンの加工品開発と後継者確保による地域振興
								●	4	芸西村の白玉糖による地域活性化
●		●							5	土佐備長炭の生産・出荷・販売体制の強化
							●		6	馬路の林業加工品の販売促進
●		●	●	●	●				7	芸東地域の水産物の付加価値向上と販路拡大
●									8	室戸海洋深層水による地域産業の推進
●									9	キラメッセ室戸「楽市」を核とした地産地消・外商の拡大
●									10	室戸市中心市街地の活性化
	●								11	安芸本町商店街を中心とする地域の活性化
		●							12	海の駅東洋町を拠点とした地域振興
		●							13	有害鳥獣等を活用したペットフードの開発と販路開拓
			●						14	地域食材を活用した奈半利町の特産品の開発及び販路拡大
				●					15	田野町の完全天日塩を活用した産業振興及び観光への活用
				●					16	道の駅「田野駅屋」の機能強化に向けた取り組み
					●				17	やすだ資源を活かした6次産業化事業の推進
								●	18	地場産品直販所「かっぱ市」等による地域活性化
●	●	●	●	●	●	●	●	●	19	安芸地域の観光振興の推進
			●	●	●	●	●		20	日本遺産を活用した中芸地域の活性化
●									21	室戸市の観光資源を活かした交流人口の拡大・地域振興
	●								22	岩崎弥太郎や地域食材等を活用した観光の推進
●		●							23	東洋町における体験型・滞在型観光の推進
			●						24	奈半利町の観光施設の誘客強化による交流人口の拡大
					●				25	安田川アユおどる清流キャンプ場の再整備による交流人口の拡大と地域の活性化
						●			26	北川村観光3施設の誘客強化による交流人口の拡大
●									27	椎名集落活動センターたのしいなを拠点とした室戸市椎名地区の活性化
					●				28	集落活動センターなかやまを拠点とした安田町中山地区の活性化
							●		29	集落活動センターやなせを拠点とした馬路村魚梁瀬地区の活性化
								●	30	集落活動センターげいせいを拠点とした”小さくてももっと元気で輝くむら”づくり

修正前

安芸地域アクションプラン

分野

農業

AP名 (実施地域)	<b>No.2 日本一のナス産地拡大クラスタープロジェクト</b> (室戸市、安芸市、東洋町、奈半利町、田野町、安田町、芸西村)
実施主体	◎JA高知県(安芸地区)、ゆめファーム全農NEXTこうち、(株)アグリード土佐あき、安芸市担い手支援協議会、安芸市施設園芸品消費拡大委員会、(一社)高知県東部観光協議会、(一社)安芸市観光協会、安芸商工会議所、地元加工業者、加工グループ、地元飲食店、地域直販所
APへの位置づけ	R2.4月
事業概要	県東部の基幹品目であるナスの生産拡大を目指して、新技術の定着や担い手対策を進める。また、ナスの機能性表示を生かした青果販売や新たな加工品の開発・販売及び地元飲食店等での利用促進に取り組み、クラスターの形成を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
(1) 出荷量(9~8月)	18,674t*	19,475t		20,000t
(2) 新規加工品開発数	2件 (H29~R元累計)	0件		3件 (R2~R5累計)

※H28.9月~R元.8月までの3ヶ年平均(H30.9月~R元.8月の出荷量突出して多かつたため、前3ヶ年の平均値とする。)

これまでの主な動き

<p><b>&lt;これまでの取り組みの内容&gt;</b></p> <p>◆生産拡大と品質向上の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆめファーム全農NEXTこうちとの栽培検討会の定期開催(H29) ※R2はコロナ対策として個別指導を実施</li> <li>・環境制御技術の導入推進(H26~)</li> <li>・安芸市担い手支援協議会幹事会の定期開催によるサポートハウスの現況確認、就農希望者の面談(H28~)</li> <li>・安芸市農福連携研究会の定期開催による各関係機関の取り組み状況確認等(H30~)</li> </ul> <p>◆ナスを使った新規加工品の開発・販売</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JA女性部なすっこ組が6次産業化セミナー受講(H30:7回、R元:1回)</li> <li>・「なすまん」のブラッシュアップ及び新規加工品の開発</li> <li>・JA高知県プロデュースの複合施設「アグリコレット」での販売開始(R元~)(ナス餃子、ながらし油~、なすまん2種)</li> <li>・道の駅大山で麻婆ナス丼の販売開始(H31.4月~)</li> <li>・安芸グループふぁーむが焼きなすソフトクリーム、焼きナスの豆乳アイスを開発(R2)</li> <li>・ナス料理店マップの作成・配布(8,000部)(H29)</li> <li>・「安芸市施設園芸品消費拡大委員会」のホームページにナス料理店マップを掲載(R元~)</li> </ul>	<p>◆ナスの消費拡大と認知度向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ナス料理のレシピ動画を制作し「安芸市施設園芸品消費拡大委員会」のホームページ及び動画サイトで公開(R2)</li> <li>・市内ナス料理等提供店舗スタンプラリーの実施(R2)</li> <li>・ナスの機能性表示承認(R2)</li> <li>・ナス青果機能性表示パッケージの活用(JA)(R2~)</li> </ul> <p><b>&lt;主な成果&gt;</b></p> <p>◆ゆめファーム全農NEXTこうちにおける10a当たり収量 H30:(土耕)18t→R2:(土耕区)10.7t、(養液区)22.8t</p> <p>◆環境制御技術導入面積率 H27:12.7%→R元:44.1%</p> <p>◆新規就農者数(安芸市担い手協議会が関与した数) H28:1人→R元:6人</p> <p>◆農福連携による雇用マッチング実績(無料職業紹介所「アグリサポート」を介した数) H28:0人→R元:16人→R2:41人(生産者と:33人、JA出荷場と:8人)</p> <p><b>&lt;課題&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さらなる生産拡大と品質向上</li> <li>・環境制御技術の導入面積の拡大</li> <li>・ナスの機能性をPRに用いたナスの消費拡大や加工商品の開発・販売の取り組み</li> <li>・ナスを原材料とする加工業者の掘り起こし及び販路開拓</li> </ul>
---	--

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆生産拡大と品質向上の取り組み	<p><b>新技術の導入と担い手確保の取り組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ゆめファーム全農 NEXT こうち： 新技術を導入した高収量生産技術（30t/10a）の確立</li> <li>●JA 高知県（安芸地区）、(株)アグリード土佐あき： 環境制御技術の導入面積（目標 R5 90%）の拡大推進、アグリサポートによる労働力確保（農福連携等）</li> <li>●安芸市担い手支援協議会、(株)アグリード土佐あき： 新規就農者の確保及び経営安定による早期営農定着支援</li> <li>●県（農業振興センター） 技術支援等の情報提供、関係機関への橋渡し</li> </ul>				
◆ナスを使った新規加工品の開発・販売	<p><b>新規加工品の開発</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●地元加工業者、加工グループ： ナスを使った新規加工品の開発、試作品のイベント等での販売・磨き上げ</li> <li>●県（地域本部等）：試作品づくりへのアドバイスを求めるための産振アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供</li> </ul> <p><b>加工品の PR と販路開拓</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●地元加工業者、加工グループ： 新たに開発した加工品の PR 活動、販路開拓に向けた商談会等への出展</li> <li>●県（地域本部等）：高知県地産外商公社への橋渡し、産振アドバイザーの活用提案</li> </ul>				
◆ナスの消費拡大と認知度向上	<p><b>ナスの消費拡大や産地としての認知度向上の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●安芸市施設園芸品消費拡大委員会： SNS や HP を利用したナスの機能性やナス料理レシピ等の消費拡大に向けた PR、消費地での販促活動（なす祭り等）や県内小中学校での出前授業</li> <li>●地元飲食店、地域直販所、(一社)高知県東部観光協議会、(一社)安芸市観光協会、安芸商工会議所： ナス料理提供による産地 PR、イベント開催（ナスの日等）、観光客等への提供店やイベントの周知</li> <li>●JA 高知県（安芸地区）： ナスの機能性表示を利用した販促活動</li> <li>●県（地域本部等）： 情報提供、関係機関への橋渡し、イベント開催の支援</li> </ul>				

AP名 (実施地域)	<b>No.2 日本一のナス産地拡大クラスタープロジェクト</b> (室戸市、安芸市、東洋町、奈半利町、田野町、安田町、芸西村)
実施主体	◎JA 高知県 (安芸地区)、ゆめファーム全農 NEXT こうち、(株)アグリード土佐あき、安芸市担い手支援協議会、安芸市施設園芸品消費拡大委員会、(一社)高知県東部観光協議会、(一社)安芸市観光協会、安芸商工会議所、地元加工業者、加工グループ、地元飲食店、地域直販所、(一社)こうち絆ファーム
APへの位置づけ	R2.4月
事業概要	県東部の基幹品目であるナスの生産拡大を目指して、新技術の定着や担い手対策を進める。また、ナスの機能性表示を生かした青果販売や新たな加工品の開発・販売及び地元飲食店等での利用促進に取り組み、クラスターの形成を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
(1) 出荷量(9～8月)	18,674t*	18,996t	19,119t	20,000t
(2) 新規加工品開発数	2件 (H29～R元累計)	2件	0件	3件 (R2～R5累計)

※H28.9月～R元.8月までの3ヶ年平均 (H30.9月～R元.8月の出荷量が突出して多かったため、前3ヶ年の平均値とする。)

これまでの主な動き	
<p><b>&lt;これまでの取り組みの内容&gt;</b></p> <p>◆<b>生産拡大と品質向上の取り組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ゆめファーム全農 NEXT こうちとの栽培検討会の定期開催 (H29) ※R2はコロナ対策として個別指導を実施</li> <li>環境制御技術の導入推進 (H26～)</li> <li>安芸市担い手支援協議会幹事会の定期開催によるサポートハウスの現況確認、就農希望者の面談 (H28～)</li> <li>安芸市農福連携研究会の定期開催による各関係機関の取り組み状況確認等 (H30～)</li> </ul> <p>◆<b>ナスを使った新規加工品の開発・販売</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>JA女性部なすっこ組が6次産業化セミナー受講 (H30:7回、R元:1回)し、「なすまん」のブラッシュアップ及び新規加工品(ナス餃子)の開発</li> <li>道の駅大山で麻婆ナス丼の販売開始 (H31.4月～)</li> <li>JA高知県プロデュースの複合施設「アグリコレット」での販売開始 (R元～) (ナス餃子、ながらし油～、なすまん2種)</li> <li>安芸グループふぁーむが焼きなすソフトクリーム、焼きナスの豆乳アイスを開発 (R2)</li> </ul> <p>◆<b>ナスの消費拡大と認知度向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ナス料理店マップの作成・配布 (8,000部) (H29)</li> <li>「安芸市施設園芸品消費拡大委員会」のホームページにナス料理店マップを掲載 (R元～)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ナス料理のレシピ動画を制作し「安芸市施設園芸品消費拡大委員会」のホームページ及び動画サイトで公開 (R2～)</li> <li>市内ナス料理等提供店舗スタンプラリーの実施 (R2)</li> <li>ナスの機能性表示承認 (R2)</li> <li>ナス青果機能性表示パッケージの活用 (JA) (R2～)</li> <li>ナスの機能性PR動画の制作 (R2) 及び公開 (R3)</li> </ul> <p><b>&lt;主な成果&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ゆめファーム全農 NEXT こうちにおける10a当たり収量 H30:(土耕)18t→R2:(土耕区)10.7t、(養液区)22.8t→R3:(土耕区)30t、(養液区)35t</li> <li>環境制御技術導入面積率 H27:12.7%→R元:44.1%→R2:45.9%</li> <li>新規就農者数 (安芸市担い手協議会が関与した数) H28:1人→R元:6人</li> <li>農福連携による雇用マッチング実績 (無料職業紹介所「アグリサポート」を介した数) H28:0人→R元:16人→R2:41人 (生産者と:33人、JA出荷場と:8人) →R3:農家7人、多機能事業所17人 (11月末まで)</li> <li>ナス料理のレシピ動画公開数 R2:8品、R3:2品</li> </ul> <p><b>&lt;課題&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>さらなる生産拡大と品質向上</li> <li>環境制御技術の導入面積の拡大</li> <li>ナス料理動画の継続及びバージョンアップ</li> <li>ナスを原材料とする加工品の販路開拓</li> </ul>

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆生産拡大と品質向上の取り組み	<p><b>新技術の導入と担い手確保の取り組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ゆめファーム全農 NEXT こうち： 新技術を導入した高収量生産技術（30t/10a）の確立</li> <li>●JA 高知県（安芸地区）、(株)アグリード土佐あき： 環境制御技術の導入面積（目標 R5 90%）の拡大推進、アグリサポートによる労働力確保（農福連携等）</li> <li>●安芸市担い手支援協議会、(株)アグリード土佐あき： 新規就農者の確保及び経営安定による早期営農定着支援</li> <li>●県（農業振興センター） 技術支援等の情報提供、関係機関への橋渡し</li> </ul>				
◆ナスを使った新規加工品の開発・販売	<p><b>新規加工品の開発</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●地元加工業者、加工グループ： ナスを使った新規加工品の開発、試作品のイベント等での販売・磨き上げ</li> <li>●県（地域本部等）：試作品づくりへのアドバイスを得るための産振アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供</li> </ul> <p><b>加工品の PR と販路開拓</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●地元加工業者、加工グループ： 新たに開発した加工品の PR 活動、販路開拓に向けた商談会等への出展</li> <li>●県（地域本部等）：高知県地産外商公社への橋渡し、産振アドバイザーの活用提案</li> </ul>				
◆ナスの消費拡大と認知度向上	<p><b>ナスの消費拡大や産地としての認知度向上の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●安芸市施設園芸品消費拡大委員会： SNS や HP を利用したナスの機能性やナス料理レシピ等の消費拡大に向けた PR、消費地での販促活動（なす祭り等）や県内小中学校での出前授業</li> <li>●地元飲食店、地域直販所、(一社)高知県東部観光協議会、(一社)安芸市観光協会、安芸商工会議所： ナス料理提供による産地 PR、イベント開催（ナスの日等）、観光客等への提供店やイベントの周知</li> <li>●JA 高知県（安芸地区）： ナスの機能性表示を利用した販促活動</li> <li>●県（地域本部等）： 情報提供、関係機関への橋渡し、イベント開催の支援</li> </ul>				

修正前

安芸地域アクションプラン

分野

水産業

<b>AP 名 (実施地域)</b>	<b>No.7 芸東地域の水産物の付加価値向上と販路拡大</b> (戸海市、東洋町、奈半利町、田野町、安田町)
<b>実施主体</b>	【漁業者】◎美阿丸、土佐室戸鮪軍団、室戸市定置漁業振興協議会、中芸定置網漁業振興協議会 【水産加工業者】◎(有)タカシン水産（佐喜浜工場）、◎(有)山本かまぼこ店、漁師の食卓
<b>AP への 位置づけ</b>	H21.4月
<b>事業概要</b>	芸東地域の定置網漁獲物や近海マグロを中心に、漁業者や水産加工業者による加工品の開発・製造・販売を進め、付加価値向上・漁業所得の向上につなげる。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
(1)漁業者による加工品販売額	45万円 (H30)	50万円		300万円
(2)水産加工業者の販売額	2.5億円 (H30)	2.3億円		3億円

これまでの主な動き

<これまでの取り組みの内容>

◆漁業者による加工品の製造販売

(定置網漁獲物)

・定置網で漁獲される小イカ、ハダカイワシなどの低利用魚の簡易加工品を試行 (H26)

(近海マグロ)

・室戸沖合鮪漁業船主組合の若手船主を中心として、近海マグロのPRを目的に「土佐室戸鮪軍団」を結成、学校での出前授業や加工品の開発、イベントでの試験販売等の取り組みを開始 (H29～)

・マグロの内臓の加工品開発 (H29～)、首都圏飲食店でのフェアメニューやふるさと納税返礼品として採用、アンテナショップや道の駅での販売開始 (H30～)

◆水産加工業者による加工品の製造販売

(有)タカシン水産

・産業振興推進総合支援事業費補助金を活用した水産加工施設の整備及び地域の定置網漁獲物を中心とした加工事業の開始 (H21～)

・主力の「しめサバ」に加え、ギフト用漬け商品、メジカフレーク、キンメダイフィレなどの定番商品を販売

・ふるさと納税返礼品として取り扱い (H27～)

(有)山本かまぼこ店

・産業振興推進総合支援事業費補助金（ステップアップ事業）を活用した商品開発及び新工場の基本設計等事業の開始 (R2～)

<主な成果>

◆マグロ内臓の加工品販売額

H29：0円 → H30：45万円

→ R元：50万円

◆水産加工品販売額

H22：0.35億円 → H30：1億円

→ R元：0.85億円

<課題>

・長期間保存できる商品の開発などによる販路拡大

・製造・販売体制の確立

・さらなる販路開拓、販売促進

・生産性の向上、衛生管理体制の強化

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆漁業者による加工品の製造販売	商品開発、販路拡大			製造体制の検討・構築	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●美阿丸、土佐室戸鮪軍団、室戸市定置漁業振興協議会： 試作品づくり、製造方法等の検討、商品化の実現、商談会等への参加による販路開拓</li> <li>●県（地域本部等）： 試作品づくりへのアドバイスを得るための産業振興アドバイザーの活用提案、その他各種支援制度に関する情報提供、各種商談会等の紹介、関係者への橋渡し</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>●美阿丸、土佐室戸鮪軍団、室戸市定置漁業振興協議会： 製造体制の検討・構築</li> <li>●県（地域本部等）： 産業振興推進総合支援事業費補助金（ステップアップ事業を含む）の活用可能性検討</li> </ul>	
	近海マグロのPR				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●土佐室戸鮪軍団： 各種イベントでの「マグロ解体ショー」の実施やマグロ加工品の販売等による広報実施</li> </ul>				
◆水産加工業者による加工品の製造販売	生産性向上と販路拡大				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(有)タカシン水産、(有)山本かまぼこ店、漁師の食卓： 販路開拓、商品開発、衛生管理体制の構築</li> <li>●県（地域本部等）： 各種支援制度に関する情報提供、各種商談会等の紹介、関係者への橋渡し、衛生管理に関する講習会等の紹介</li> </ul>				
	施設整備				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(有)山本かまぼこ店： HACCPに対応した施設整備</li> <li>●県（地域本部等）： 産業振興推進総合支援事業費補助金の活用の検討等</li> </ul>				

<b>AP 名 (実施地域)</b>	<b>No.7 芸東地域の水産物の付加価値向上と販路拡大</b> (室戸市、東洋町、奈半利町、田野町、安田町)
<b>実施主体</b>	【漁業者】◎(株)美阿丸、土佐室戸鮪軍団、室戸市定置漁業振興協議会、中芸定置網漁業振興協議会 【水産加工業者】◎(有)タカシン水産（佐喜浜工場）、◎(有)山本かまぼこ店、漁師の食卓
<b>AP への位置づけ</b>	H21.4月
<b>事業概要</b>	芸東地域の定置網漁獲物や近海マグロを中心に、漁業者や水産加工業者による加工品の開発・製造・販売を進め、付加価値向上・漁業所得の向上につなげる。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
(1)漁業者による加工品販売額	45万円 (H30)	63万円		300万円
(2)水産加工業者の販売額	2.5億円 (H30)	2.3億円		3億円

これまでの主な動き

<これまでの取り組みの内容>

◆漁業者による加工品の製造販売

(定置網漁獲物)

・定置網で漁獲される小イカ、ハダカイワシなどの低利用魚の簡易加工品を試行 (H26)

(近海マグロ)

・室戸沖合鮪漁業船主組合の若手船主を中心として、近海マグロのPRを目的に「土佐室戸鮪軍団」を結成、学校での出前授業や加工品の開発、イベントでの試験販売等の取り組みを開始 (H29～)

・マグロの内臓の加工品開発 (H29～)、首都圏飲食店でのフェアメニューやふるさと納税返礼品として採用、アンテナショップや道の駅での販売開始 (H30～)

・室戸市企業立地促進事業費補助金を活用した新加工工場建設事業の開始 (R3)

・高知県新事業チャレンジ支援事業費補助金を活用した加工機器の新規導入 (R3)

◆水産加工業者による加工品の製造販売

(有)タカシン水産

・産業振興推進総合支援事業費補助金を活用した水産加工施設の整備及び地域の定置網漁獲物を中心とした加工事業の開始 (H21～)

・主力の「しめサバ」に加え、ギフト用漬け商品、メジカフ

レーク、キンメダイフィレなどの定番商品を販売

・ふるさと納税返礼品として取り扱い (H27～)

(有)山本かまぼこ店

・産業振興推進総合支援事業費補助金 (ステップアップ事業) を活用した商品開発及び新工場の基本設計等事業の開始 (R2～)

・高知県新事業チャレンジ支援事業費補助金活用による設備導入 (R3)

・ジャパン・インターナショナルシーフードショー参加 (R3)

<主な成果>

◆マグロ内臓の加工品販売額

H29 : 0円 → H30 : 45万円

→ R元 : 50万円 → R2 : 63万円

◆水産加工品販売額

H22 : 0.35億円 → H30 : 1億円

→ R元 : 0.85億円 → R2 : 2.3億円

<課題>

・長期間保存できる商品の開発などによる販路拡大

・製造・販売体制の確立

・さらなる販路開拓、販売促進

・建設資材等高騰のための施設整備費の上昇 (株)美阿丸、(有)山本かまぼこ店

・生産性の向上、衛生管理体制の強化

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
<p>◆漁業者による加工品の製造販売</p>	<p><b>商品開発、販路拡大</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●美阿丸、土佐室戸鮪軍団、室戸市定置漁業振興協議会：                     <ul style="list-style-type: none"> <li>試作品づくり、製造方法等の検討、商品化の実現、商談会等への参加による販路開拓</li> </ul> </li> <li>●県（地域本部等）：                     <ul style="list-style-type: none"> <li>試作品づくりへのアドバイスを得るための産振アドバイザーの活用提案、その他各種支援制度に関する情報提供、各種商談会等の紹介、関係者への橋渡し</li> </ul> </li> </ul> <p><b>施設整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●(株)美阿丸：                     <ul style="list-style-type: none"> <li>HACCP に対応した施設整備</li> </ul> </li> <li>●県（地域本部等）：                     <ul style="list-style-type: none"> <li>新事業チャレンジ支援事業費補助金の活用</li> </ul> </li> </ul> <p><b>近海マグロの PR</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●土佐室戸鮪軍団：                     <ul style="list-style-type: none"> <li>各種イベントでの「マグロ解体ショー」の実施やマグロ加工品の販売等による広報実施</li> </ul> </li> </ul>				
<p>◆水産加工業者による加工品の製造販売</p>	<p><b>生産性向上と販路拡大</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●(有)タカシン水産、(有)山本かまぼこ店、漁師の食卓：                     <ul style="list-style-type: none"> <li>販路開拓、商品開発、衛生管理体制の構築</li> </ul> </li> <li>●県（地域本部等）：                     <ul style="list-style-type: none"> <li>各種支援制度に関する情報提供、各種商談会等の紹介、関係者への橋渡し、衛生管理に関する講習会等の紹介</li> </ul> </li> </ul> <p><b>施設整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●(有)山本かまぼこ店：                     <ul style="list-style-type: none"> <li>HACCP に対応した施設整備</li> </ul> </li> <li>●県（地域本部等）：                     <ul style="list-style-type: none"> <li>産振総合補助金の活用</li> </ul> </li> </ul>				

修正前

安芸地域アクションプラン

分野

商工業

AP名 (実施地域)	No.9 キラメッセ室戸「楽市」を核とした地産地消・外商の拡大 (室戸市)
実施主体	◎協同キラメッセ室戸(有)、◎室戸市
APへの 位置づけ	H25.4月
事業概要	道の駅キラメッセ室戸「楽市」を拠点とし、地域製品の充実や販売を促進するとともに、周辺施設等と連携することで、地産地消・外商及び交流人口の拡大を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
(1)売上高	4.1億円 (H30)	3.5億円		4.2億円
(2)レジ通過者数	251,612人 (H30)	232,296人		260,000人

これまでの主な動き

これまでの取り組み内容	主な成果
<p><b>◆施設整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>複合経営拠点化に向けた協議会の開催 (H28～H30:11回)</li> <li>各種アドバイザーの活用による売上分析、売り場づくりや動線見直しの実施 (H29～H30:4回)</li> <li>直販所のレイアウト改装 (R元)</li> </ul> <p><b>◆農産物の確保</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>庭先集荷開始 (H28～)</li> <li>新品目生産のための生産者説明会の開催 (H29～)</li> <li>集荷日数・ルートの拡充 (H30～)</li> </ul> <p><b>◆加工品の開発、販路拡大</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ふるさと納税返礼品等の拡充 (H26～)</li> <li>6次化セミナー実践コースの受講 (H28～R元:8回)</li> <li>秋津野ガルテン(和歌山県)等視察 (H29)</li> <li>6次化セミナーを通じて開発した商品の販売 (R元～)</li> <li>HACCP研修参加 (R2)</li> </ul>	<p><b>◆商品開発数</b></p> <p>H28:4品 → H30:7品 → R元:0品</p> <p><b>◆ふるさと納税返礼品の拡充</b></p> <p>H27:39品 → H30:92品 → R元:72品</p> <p><b>◆ふるさと納税額の増加</b></p> <p>H27:7,555万円 → H30:13,626万円 → R元:8,311万円</p> <p><b>◆庭先集荷した野菜等の出荷額</b></p> <p>H29:27万円 → H30:153万円 → R元:157万円</p> <p><b>＜課題＞</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>農産物出荷者の高齢化に伴う集荷体制の強化</li> <li>加工品や農産物(特に夏場)等の商品不足</li> </ul>

## 第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆農産物の確保	集荷体制の強化・栽培品目の選定				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●協同キラメッセ室戸(有) : 庭先集荷の利用者数増のための説明会開催、庭先集荷ルート拡大の検討（新たな集荷ルートの開拓、集荷日数の増加、利用者増に向けた働きかけ等）、収益性のある品目の選定及び生産者の決定</li> <li>●県（地域本部等）：各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し</li> </ul>				
◆加工品の開発、販路拡大	実証圃の継続	栽培品目の選定、自家栽培の検討			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●協同キラメッセ室戸(有) : 実証圃における実証栽培の継続実施</li> <li>●県（地域本部等）：農業技術の指導等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●協同キラメッセ室戸(有) : 収益性のある品目の選定、自家栽培の検討</li> <li>●室戸市 : 各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し、周辺環境整備に向けた説明会実施（農地の選定等）</li> <li>●県（地域本部等） : 各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し</li> </ul>			
◆加工品の開発、販路拡大	加工品の開発、販路拡大				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●協同キラメッセ室戸(有) : 加工品の開発、ネット通販の強化、県外の道の駅等との連携によるPR強化（お互いの加工品等を他道の駅で販売等）</li> <li>●室戸市 : ふるさと納税返礼品への積極的活用、各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し</li> <li>●県（地域本部等） : 各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し</li> </ul>				

修正後

安芸地域アクションプラン

分野

商工業

AP名 (実施地域)	No.9 キラメッセ室戸「楽市」を核とした地産地消・外商の拡大 (室戸市)
実施主体	◎協同キラメッセ室戸(有)、◎室戸市
APへの位置づけ	H25.4月
事業概要	道の駅キラメッセ室戸「楽市」を拠点とし、地域産品の充実や販売を促進するとともに、周辺施設等と連携することで、地産地消・外商及び交流人口の拡大を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
(1)売上高	4.1億円 (H30)	3.2億円		4.2億円
(2)レジ通過者数	251,612人 (H30)	212,342人		260,000人

これまでの主な動き

<これまでの取り組み内容>

◆施設整備

- ・複合経営拠点化に向けた協議会の開催 (H28～H30:11回)
- ・各種アドバイザーの活用による売上分析、売り場づくりや動線見直しの実施 (H29～H30:4回)
- ・直販所のレイアウト改装 (R元)

◆農産物の確保

- ・庭先集荷開始 (H28～)
- ・新品目生産のための生産者説明会の開催 (H29～)
- ・集荷日数・ルートの拡充 (H30～)

◆加工品の開発、販路拡大

- ・ふるさと納税返礼品等の拡充 (H26～)
- ・6次化セミナー実践コースの受講 (H28～R元:8回)
- ・秋津野ガルテン(和歌山県)等視察 (H29)
- ・6次化セミナーを通じて開発した商品の販売 (R元～)
- ・HACCP研修参加 (R2.10月)
- ・県外道の駅との連携模索 (R3.10月、12月)

<主な成果>

◆商品開発数

H28:4品 → H30:7品 → R元:0品  
→ R2:0品

◆ふるさと納税返礼品の拡充

H27:39品 → H30:92品 → R元:72品  
→ R2:73品

◆ふるさと納税額の増冊

H27:7,555万円 → H30:13,626万円  
→ R元:8,311万円 → R2:5,934万円

◆庭先集荷した野菜等の出荷額

H29:27万円 → H30:153万円  
→ R元:157万円 → R2:146万円

<課題>

- ・農産物出荷者の高齢化に伴う集荷体制の強化
- ・加工品や農産物(特に夏場)等の商品不足

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆農産物の確保	集荷体制の強化・栽培品目の選定				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●協同キラメッセ室戸(有) : 庭先集荷の利用者数増のための説明会開催、庭先集荷ルート拡大の検討（新たな集荷ルートの開拓、集荷日数の増加、利用者増に向けた働きかけ等）、収益性のある品目の選定及び生産者の決定</li> <li>●県（地域本部等）：各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し</li> </ul>				
◆加工品の開発、販路拡大	実証圃の継続		栽培品目の選定、自家栽培の検討		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●協同キラメッセ室戸(有) : 実証圃における実証栽培の継続実施</li> <li>●県（地域本部等）：農業技術の指導等</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●協同キラメッセ室戸(有) : 収益性のある品目の選定、自家栽培の検討</li> <li>●室戸市 : 各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し、周辺環境整備に向けた説明会実施（農地の選定等）</li> <li>●県（地域本部等） : 各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し</li> </ul>		
◆加工品の開発、販路拡大	加工品の開発、販路拡大				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●協同キラメッセ室戸(有) : 加工品の開発、ネット通販の強化、県外の道の駅等との連携によるPR強化（お互いの加工品等を他道の駅で販売等）</li> <li>●室戸市 : ふるさと納税返礼品への積極的活用、各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し</li> <li>●県（地域本部等） : 各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し</li> </ul>				

修正前

安芸地域アクションプラン

分野

商工業

<b>AP名 (実施地域)</b>	<b>No.10 室戸市中心市街地の活性化</b> (室戸市)
<b>実施主体</b>	◎室戸市商工会、◎室戸市
<b>APへの 位置づけ</b>	R2.4月
<b>事業概要</b>	新たに策定する室戸市中心市街地振興計画に基づき、空き店舗や地域資源を活用した取り組みなどを進めることで室戸市中心市街地の魅力を高め、住民や観光客の利用促進を図り、地域の活性化につなげる。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
中心市街地での事業所の 新規開業	—	—		2件 (R2～R5累計)

これまでの主な動き

<p><b>&lt;これまでの取り組みの内容&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ <b>中心市街地の活性化に向けた新たな取り組みの実施</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・室戸市中心市街地振興協議会の設立 (R元)</li> <li>・室戸市中心市街地振興協議会、同ワーキンググループにおける協議 (R元)</li> </ul> </li> <li>◆ <b>既存商店街の魅力向上に向けた取り組みの推進</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チャレンジショップ「Go・ムロト」事業開始 (H30) チャレンジャー4名 (H30～R2)</li> <li>・イベント実施 まちゼミ開催 (R元.11月、R2.4月)</li> </ul> </li> </ul>	<p><b>&lt;主な成果&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 室戸市中心市街地振興協議会ワーキンググループでの議論を踏まえた振興計画の策定 (R2)</li> </ul> <p><b>&lt;課題&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中心市街地の人口減少や空き店舗の増加などによる商店街の魅力低下</li> </ul>
---	--

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆ 中心市街地の活性化に向けた新たな取り組みの実施	<p>新たに策定された中心市街地振興計画に基づく取り組みの推進</p>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 室戸市商工会、室戸市： 具体的な事業内容の検討・実施、商店街等振興計画推進事業費補助金の活用の検討・実施</li> <li>● 県（地域本部等）： 室戸市中心市街地振興協議会に参画し振興計画の活性化施策の実施を支援、産業振興アドバイザーや産業振興推進総合支援事業費補助金（ステップアップ事業を含む）の活用を提案、各種支援制度などの情報提供</li> </ul>				
◆ 既存商店街の魅力向上に向けた取り組みの推進	<p>新規出店者の育成（チャレンジショップ事業）</p>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 室戸市商工会、室戸市： チャレンジショップのチャレンジャーの募集及びチャレンジャーへの経営指導、SNS等による情報発信、商店街への出店支援</li> <li>● 県（地域本部等）： チャレンジショップ事業に対する支援、情報発信</li> </ul>				
	<p>賑わいの創出（イベント実施）</p>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 室戸市、室戸市商工会： まちゼミなどの誘客イベントの検討及び実施</li> <li>● 県（地域本部等）： 協議の場への参画におけるアドバイス、イベント情報発信</li> </ul>					

<b>AP名 (実施地域)</b>	<b>No.10 室戸市中心市街地の活性化</b> (室戸市)
<b>実施主体</b>	◎室戸市商工会、◎室戸市
<b>APへの 位置づけ</b>	R2.4月
<b>事業概要</b>	新たに策定する室戸市中心市街地振興計画に基づき、空き店舗や地域資源を活用した取り組みなどを進めることで室戸市中心市街地の魅力を高め、住民や観光客の利用促進を図り、地域の活性化につなげる。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
中心市街地での事業所の新規開業	—	3件		2件 (R2～R5 累計)

これまでの主な動き

<これまでの取り組みの内容>

- ◆**中心市街地の活性化に向けた新たな取り組みの実施**
  - ・室戸市中心市街地振興協議会の設立 (R元)
  - ・室戸市中心市街地振興協議会、同ワーキンググループにおける協議 (R元)
  - ・商店街事業者と室戸市との意見交換会を開催 (R3.6)
  - ・室戸市中心市街地振興協議会における協議 (R3.11、12)
- ◆**既存商店街の魅力向上に向けた取り組みの推進**
  - ・チャレンジショップ「Go・ムロト」事業開始 (H30)
  - チャレンジャー5名 (H30～R3)
  - ・イベント実施
  - まちゼミ開催 (R元.11月、R2.4月)

<主な成果>

- ◆室戸市中心市街地振興協議会ワーキンググループでの議論を踏まえた振興計画の策定 (R2)
- ・商店街内にチャレンジショップ卒業生による空き店舗を活用した事業所の開業 (R3.6)、イベントの開催

<課題>

- ・中心市街地の人口減少や空き店舗の増加などによる商店街の魅力低下

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆ 中心市街地の活性化に向けた新たな取り組みの実施	<p>新たに策定された中心市街地振興計画に基づく取り組みの推進</p>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 室戸市商工会、室戸市： 具体的な事業内容の検討・実施、商店街等振興計画推進事業費補助金の活用の検討・実施</li> <li>● 県（地域本部等）： 室戸市中心市街地振興協議会に参画し振興計画の活性化施策の実施を支援、産業振興アドバイザーや産振総合補助金（ステップアップによる事業を含む）の活用を提案、各種支援制度などの情報提供</li> </ul>				
◆ 既存商店街の魅力向上に向けた取り組みの推進	<p>新規出店者の育成（チャレンジショップ事業）</p>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 室戸市商工会、室戸市： チャレンジショップのチャレンジャーの募集及びチャレンジャーへの経営指導、SNS等による情報発信、商店街への出店支援</li> <li>● 県（地域本部等）： チャレンジショップ事業に対する支援、情報発信</li> </ul>				
	<p>賑わいの創出（イベント実施）</p>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 室戸市、室戸市商工会： まちゼミなどの誘客イベントの検討及び実施</li> <li>● 県（地域本部等）： 協議の場への参画におけるアドバイス、イベント情報発信</li> </ul>				
			<p>地域おこし協力隊の募集・雇用</p>		
			<ul style="list-style-type: none"> <li>● 室戸市： 中心市街地振興を専従とした地域おこし協力隊募集・雇用の開始</li> <li>● 県（地域本部等）： 募集情報の発信等支援</li> </ul>		

修正前

安芸地域アクションプラン

分野

商工業

<b>AP名 (実施地域)</b>	<b>No.12 海の駅東洋町を拠点とした地域振興</b> (東洋町)
<b>実施主体</b>	東洋町
<b>APへの 位置づけ</b>	H21.4月
<b>事業概要</b>	高知県の東の玄関口である東洋町の観光の窓口及び地元特産品の販売、飲食施設等の機能を持つ「海の駅東洋町」を核とした交流人口の拡大により、地域の活性化を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
(1)売上高	1.68億円 (H30)	1.68億円		1.76億円
(2)来場者数	177,809人 (H30)	175,666人		187,000人

これまでの主な動き

<p><b>&lt;これまでの取り組みの内容&gt;</b></p> <p>◆<b>運営体制の強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「海の駅東洋町」の整備 (H20.1月)</li> <li>・火災による焼失 (H24.7月)</li> <li>・産業振興推進総合事業費補助金を活用した再建 (H25.12月)、運営再開 (H26.1月～)</li> <li>・教育旅行の受入 (H28～30)</li> <li>・駅長(責任者)の雇用 (H29～R元)</li> <li>・弁当、惣菜部門の創設及びスタッフの雇用 (H30)</li> </ul> <p>◆<b>地域特産品を活用した加工品の開発・販売</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サバやトマト等を活用した加工品開発及び試験販売 (パスタソース、カレー、丼) (H29)</li> <li>・近隣の調理場を活用した弁当、惣菜づくり開始 (H30～)</li> <li>・ポンカンピールを使用したお土産品の開発及び販売 (チョコレート、クッキー等) (R2)</li> </ul> <p>◆<b>誘客の促進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップの開催 (H28:3回、H29:4回、H30:5回、R元:3回)</li> <li>・イベントへの出店 (H28～R元)</li> <li>・農林水産物直販所運営管理者及び安心係等発展講集会参加 (H29)</li> <li>・直販市活性化セミナー受講 (H30)</li> <li>・海の駅の駐車場などを活用したイベント誘致 (kawasaki主催のバイクイベント (H31))</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高知6次産業化サポートセンターよりプランナー派遣 (R元～)</li> <li>・キャッシュレス対応化 (R2)</li> </ul> <p><b>&lt;主な成果&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・弁当、惣菜部門の創設による商品ラインナップの充実 ⇒レストラン利用に加え新たな客層を開拓し、売上に繋げることができた。</li> <li>・サバを活用した漁師料理「じゃんじゃん丼」等をレストランでメニュー化 ⇒新たなメニュー提供による集客力の向上及び東洋町の特産品のPRが図れた。</li> <li>・動線の見直し及び売場のレイアウト変更 ⇒店内の回遊性が向上し、効率的な売場づくりにつながった。</li> <li>・バイクイベントの開催 (H31.4.21)により、一層の誘客を図ることができた。 ⇒対前年同日比(客数)120%、(売上)128%</li> </ul> <p><b>&lt;課題&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・店舗の狭隘対策</li> <li>・特産品の開発と販路拡大</li> <li>・集客強化</li> </ul>
--	---

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆ 運営体制の強化	<b>出品者勉強会の開催</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 東洋町：専門家等を活用した勉強会の実施</li> <li>● 県（地域本部等）：産業振興アドバイザー等の活用の提案、各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し</li> </ul>				
◆ 地域特産品を活用した加工品の開発・販売	<b>加工品の開発・販売による地産外商</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 東洋町：新商品の検討・開発・販売、町内外のイベント出店、ふるさと納税への出品</li> <li>● 県（地域本部等）：試作品づくりへのアドバイスを求めるための産業振興アドバイザー等の活用提案、各種支援制度に関する情報提供、高知県地産外商公社への橋渡し</li> </ul>				
◆ 誘客の促進	<b>加工施設の整備に向けた検討</b>		<b>加工施設の整備</b>		<b>加工品製造、販売</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 東洋町：先進地の視察、整備の検討</li> <li>● 県（地域本部等）：加工施設整備へのアドバイスを求めるための産業振興アドバイザー等の活用提案、各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 東洋町：施設の整備、備品の導入</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 東洋町：県版 HACCP の認証取得</li> <li>● 県（地域本部等）：衛生管理に関する講習会等の紹介</li> </ul>
	<b>魅力的な店舗づくり、情報の発信</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 東洋町：キャッシュレス対応の検討、店内レイアウトの変更、ワークショップ等イベントの実施、SNSを活用した情報発信</li> <li>● 県（地域本部等）：各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し</li> </ul>					

修正後

安芸地域アクションプラン

分野

商工業

AP名 (実施地域)	No.12 海の駅東洋町を拠点とした地域振興 (東洋町)
実施主体	東洋町
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	高知県の東の玄関口である東洋町の観光の窓口及び地元特産品の販売、飲食施設等の機能を持つ「海の駅東洋町」を核とした交流人口の拡大により、地域の活性化を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
(1)売上高	1.68億円 (H30)	1.35億円		1.76億円
(2)来場者数	177,809人 (H30)	140,231人		187,000人

これまでの主な動き

<これまでの取り組みの内容>

◆運営体制の強化

- ・「海の駅東洋町」の整備 (H20.1月)
- ・火災による焼失 (H24.7月)
- ・産業振興推進総合事業費補助金を活用した再建 (H25.12月)、運営再開 (H26.1月～)
- ・教育旅行の受入 (H28:1回、H29:2回、H30:2回、R元:0回)
- ・駅長(責任者)の雇用 (H29～R元)
- ・弁当、惣菜部門の創設及びスタッフの雇用 (H30～)
- ・地域おこし協力隊2名の雇用 (R3)

◆地域特産品を活用した加工品の開発・販売

- ・サバやトマト等を活用した加工品開発及び試験販売 (パスタソース、カレー、丼) (H29)
- ・近隣の調理場を活用した弁当、惣菜づくり (H30～)
- ・ポンカンピールを使用したお土産品の開発及び販売 (チョコレート、クッキー等) (R2～)
- ・ポンカン食パンの販売 (R3)

◆誘客の促進

- ・ワークショップの開催 (H28:3回、H29:4回、H30:5回、R元:3回)
- ・イベントへの出店 (H28:2回、H29:11回、H30:16回、R元:10回)
- ・農林水産物直販所運営管理者及び安心係等発展講集会参加 (H29)
- ・直販市活性化セミナー受講 (H30)

- ・海の駅の駐車場などを活用したイベント誘致 (kawasaki主催のバイクイベント (H31))
- ・高知6次産業化サポートセンターよりプランナー派遣 (R元～R3)
- ・キャッシュレス対応化 (R2～)
- ・レストラン部門のオペレーションを見直し、新メニューの提供開始 (R3)
- ・地域力創造アドバイザーの導入 (R3)

<主な成果>

- ・弁当、惣菜部門の創設による商品ラインナップの充実の結果、レストラン利用に加え新たな客層を開拓し、売上につなげることができた。
- ・サバを活用した漁師料理「じゃんじゃん丼」等をレストランでメニュー化の結果、集客力の向上及び東洋町の特産品のPRが図れた。
- ・動線の見直し及び売場のレイアウト変更の結果、店内の回遊性が向上し、効率的な売場づくりにつながった。
- ・バイクイベントの開催 (H31.4.21)により、一層の誘客 (対前年同日比(客数)120%、(売上)128%)を図ることができた。

<課題>

- ・店舗の狭隘対策
- ・特産品の開発と販路拡大
- ・集客強化

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆ 運営体制の強化	<b>出品者勉強会の開催</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 東洋町：専門家等を活用した勉強会の実施</li> <li>● 県（地域本部等）：産振アドバイザー等の活用の提案、各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し</li> </ul>				
	<b>人材の確保・従業員研修の実施</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 東洋町：<del>高知求人ネット、ハローワーク等の登録</del>、専門家等を活用した研修の実施</li> <li>● 県（地域本部等）：産振アドバイザー等の活用の提案、各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し</li> </ul>				
	<b>運営体制の見直し</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 東洋町：地域力創造アドバイザーの活用</li> <li>● 県（地域本部等）：各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し</li> </ul>				
◆ 地域特産品を活用した加工品の開発・販売	<b>加工品の開発・販売による地産外商</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 東洋町：新商品の検討・開発・販売、町内外のイベント出店、ふるさと納税への出品</li> <li>● 県（地域本部等）：試作品づくりへのアドバイスを求めるための産振アドバイザー等の活用提案、各種支援制度に関する情報提供、高知県地産外商公社への橋渡し</li> </ul>				
◆ 誘客の促進	<b>魅力的な店舗づくり、情報の発信</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 東洋町：<del>キャッシュレス対応の検討</del>、店内レイアウトの変更、ワークショップ・マルシェ等イベントの実施・誘致、SNSを活用した情報発信</li> <li>● 県（地域本部等）：各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し</li> </ul>				

修正前

安芸地域アクションプラン		分野	商工業
AP名 (実施地域)	No.15 田野町の完全天日塩を活用した産業振興及び観光への活用 (田野町)		
実施主体	◎田野町、民間事業者		
APへの位置づけ	H24.4月		
事業概要	製塩体験施設での塩づくり体験を通じて交流人口の拡大を図るとともに、新たな就業者の育成と関連産業への波及を図る。		

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
(1) 体験施設受入人数	269人 (H30)	421人		700人
(2) 塩関連での就業者数	2人 (H30)	2人		10人 (R2～R5累計)

これまでの主な動き	
<p>&lt;これまでの取り組みの内容&gt;</p> <p>◆製塩体験施設の運営体制の整備と誘客増</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光拠点等整備事業費補助金を活用した塩づくりの過程を見学・体験できる施設の整備（H24）</li> <li>・製塩体験施設のオープン（H25.4月）</li> <li>・地域おこし協力隊の導入（H25～）</li> <li>・台風被害による施設損壊のため休止（H26.8月～H27.4月）</li> <li>・運営再開（H27.4月～）</li> <li>・新たな体験メニューの実施（H27～）</li> <li>・塩に関する掲示物の作成及び多言語対応（H27）</li> <li>・スタッフの不足により休館（H29.10月～H30.5月、H31.4月～R元.5月）</li> <li>・体験プログラムイベント「ゆず FeS」におけるプログラムの実施（H30）</li> <li>・町内ガイド組織による製塩体験施設のガイド・体験案内の実施（R元～）</li> </ul> <p>◆新規就業者の育成・環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産業振興推進総合支援事業費補助金を活用した製塩研修施設の整備（H29）</li> <li>・天日塩生産用レンタルハウスの建設（R元）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規研修生2名の受け入れ（R2～）</li> </ul> <p>◆関連産業への波及</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「道の駅田野駅屋」で完全天日塩を使用した塩ラーメンを期間限定で販売（R2）</li> </ul> <p>&lt;主な成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験施設のスタッフをしていた地域おこし協力隊が、期間満了により研修施設に移ったため、体験施設が休館となる時期があったものの、利用者増に向けた安定的な施設運営のための町内ガイド組織による運営体制が整備できた。</li> <li>・新たに製塩研修施設が整備されたことにより、塩職人の育成体制が整いつつある。</li> <li>・生産用レンタルハウスが整備されるなど、製塩研修修了後の独立に向けた環境整備が進んでいる。</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・製塩体験プログラムの磨き上げやPRの強化</li> <li>・新規就業者の定着、独立に向けた環境整備</li> <li>・新規就業者の確保</li> <li>・塩関連商品の開発</li> </ul>

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆製塩体験施設の運営体制の整備と誘客増	施設の運営体制の整備、塩づくり体験を取り入れた観光メニューの造成とさらなるPRによる誘客増				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●田野町： <ul style="list-style-type: none"> <li>移住フェア等への参加による施設運営のための人材の確保、新たな体験メニューの検討、SNS等による町内外へのPR</li> </ul> </li> <li>●県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> <li>新たな体験メニューのための各種アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供</li> </ul> </li> </ul>				
◆新規就業者の育成・環境整備	新規就業者の確保				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●田野町： <ul style="list-style-type: none"> <li>移住フェアへの参加等を通じた人材の確保</li> </ul> </li> <li>●県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> <li>情報提供、(一社)高知県移住促進・人材確保センターなどの関係機関への橋渡し</li> </ul> </li> </ul>				
	新規就業者の独立に向けた環境整備の検討、関係者間の調整				
◆関連産業への波及	加工品開発の支援、販路拡大の支援等				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●田野町、民間事業者： <ul style="list-style-type: none"> <li>民間事業者との情報共有、町内事業者等への情報提供</li> </ul> </li> <li>●県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> <li>商品開発・販路拡大のための各種アドバイザーの活用提案、産業振興推進総合支援事業費補助金の活用可能性検討、各種支援制度に関する情報提供、商談会等の紹介、関係機関への橋渡し</li> </ul> </li> </ul>				

修正後

安芸地域アクションプラン

分野

商工業

AP名 (実施地域)	No.15 田野町の完全天日塩を活用した産業振興及び観光への活用 (田野町)
実施主体	◎田野町、民間事業者
APへの位置づけ	H24.4月
事業概要	製塩体験施設での塩づくり体験を通じて交流人口の拡大を図るとともに、新たな就業者の育成と関連産業への波及を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
(1) 体験施設受入人数	269人 (H30)	64人		700人
(2) 塩関連での就業者数	2人 (H30)	2人		10人※ (R2～R5累計)

※出発点 (H30) の2名を含む。

これまでの主な動き

＜これまでの取り組みの内容＞

◆製塩体験施設の運営体制の整備と誘客増

- ・観光拠点等整備事業費補助金を活用した塩づくりの過程を見学・体験できる施設の整備 (H24)
- ・製塩体験施設のオープン (H25.4月)
- ・地域おこし協力隊の導入 (H25～~~H26:2人~~  
~~H27:2人~~  
~~H28:2人~~  
~~H29:2人~~  
~~H30:4人~~  
~~R元:2人~~  
~~R2:4人~~)
- ・台風被害による施設損壊のため休止 (H26.8月～H27.4月)
- ~~・運営再開 (H27.4月～)~~
- ・新たな体験メニューの実施 (H27～)
- ・塩に関する掲示物の作成及び多言語対応 (H27)
- ・スタッフの不足により休館 (H29.10月～H30.5月、H31.4月～R元.5月)
- ・体験プログラムイベント「ゆず FeS」におけるプログラムの実施 (H30)
- ・町内ガイド組織による製塩体験施設のガイド・体験案内の実施 (R元～)

◆新規就業者の育成・環境整備

- ・産業振興推進総合支援事業費補助金を活用した製塩研修施設の整備 (H29)
- ・天日塩生産用レンタルハウスの建設 (R元、R3)
- ・新規研修生2名の受け入れ (R2～)

◆関連産業への波及

- ・「道の駅田野駅屋」で完全天日塩を使用した塩ラーメンを期間限定で販売 (R2)

＜主な成果＞

- ・体験施設のスタッフをしていた地域おこし協力隊が、期間満了により研修施設に移ったため、体験施設が休館となる時期があったものの、利用者増に向けた安定的な施設運営のための町内ガイド組織による運営体制が整備できた。
- ・新たに製塩研修施設が整備されたことにより、塩職人の育成体制が整いつつある整った。
- ・生産用レンタルハウスが整備されるなど、製塩研修修後の独立に向けた環境整備が進んでいる。
- ・R3.7月に研修生2名が独立。田野屋青蜂、白鯛の屋号での就業と田野駅屋での塩の販売が開始された。

＜課題＞

- ・製塩体験プログラムの磨き上げやPRの強化
- ・新規就業者の定着、独立に向けた環境整備
- ・新規就業者の確保
- ・塩関連商品の開発

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆製塩体験施設の運営体制の整備と誘客増	施設の運営体制の整備、塩づくり体験を取り入れた観光メニューの造成とさらなるPRによる誘客増				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●田野町： 移住フェア等への参加による施設運営のための人材の確保、新たな体験メニューの検討、SNS等による町内外へのPR</li> <li>●県（地域本部等）： 新たな体験メニューのための各種アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>				
◆新規就業者の育成・環境整備	新規就業者の確保				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●田野町： 移住フェアへの参加等を通じた人材の確保</li> <li>●県（地域本部等）： 情報提供、(一社)高知県移住促進・人材確保センターなどの関係機関への橋渡し</li> </ul>				
	新規就業者の独立に向けた環境整備の検討、関係者間の調整				
<ul style="list-style-type: none"> <li>●田野町、民間事業者： 田野町・民間事業者間での情報共有、地域の食品加工業・飲食店等での利用検討、施設整備の検討</li> <li>●県（地域本部等）： 各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>					
◆関連産業への波及	加工品開発の支援、販路拡大の支援等				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●田野町、民間事業者： 民間事業者との情報共有、町内事業者等への情報提供</li> <li>●県（地域本部等）： 商品開発・販路拡大のための各種アドバイザーの活用提案、産業振興推進総合支援事業費補助金の活用可能性検討、各種支援制度に関する情報提供、商談会等の紹介、関係機関への橋渡し</li> </ul>				
	新規就業者の確保				
<ul style="list-style-type: none"> <li>●田野町： 移住フェアへの参加等を通じた人材の確保</li> <li>●県（地域本部等）： 情報提供、(一社)高知県移住促進・人材確保センターなどの関係機関への橋渡し</li> </ul>					

修正前

安芸地域アクションプラン

分野	観光
----	----

AP名 (実施地域)	<b>No.19 安芸地域の観光振興の推進</b> (安芸地域全域)
実施主体	◎(一社)高知県東部観光協議会、安芸広域市町村圏事務組合、市町村、観光協会等、地域団体、民間事業者
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	広域観光組織の基盤を整備し、情報発信、体験プログラムの磨き上げ、教育旅行の受入等を行うとともに、歴史や食、自然の組み合わせによる観光クラスターの整備を推進することで、安芸地域外からの誘客を増加させて地域経済の活性化を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
(1) 圏内主要施設訪問者数 (1~12月)	2,454,671人 (H30)	2,495,024人		2,606,000人
(2) 圏内宿泊者数 (1~12月)	142,741人 (H30)	145,647人		150,000人

これまでの主な動き	
<p><b>&lt;これまでの取り組みの内容&gt;</b></p> <p>◆<b>東部観光協議会の組織体制の強化と関係団体との連携</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(一社)高知県東部観光協議会設立 (H27)</li> <li>・旅行内容全般について、指定施設における携帯端末でのアンケート調査実施 (R元~)</li> <li>・日本版DMOへの登録 (R元)</li> <li>・体験型観光事業者向け「新型コロナウイルス対応ガイドライン」の策定 (R2)</li> <li>・高知東部食プロジェクトによる周遊企画実施 (R元~)</li> <li>・市町村及び観光協会とDMOの戦略や取組について共有するためのワーキンググループ開催 (R2)</li> <li>・観光地域づくり塾を通じた滞在型観光プラン整備計画策定 (R2)</li> <li>・高知県観光地域づくり推進員(高知県地域おこし協力隊)の配置 (R2)</li> </ul> <p>◆<b>戦略的な広報・PR活動の展開</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページやSNS等での圏域の情報発信 (H28~)</li> <li>・テレビや雑誌、WEB等メディアを活用した広報 (H28~)</li> <li>・広域観光ガイドブック「ひがしこうち」作成 (H30)</li> <li>・東部地域のエリア別パンフレットを3種類作成 (R2)</li> </ul> <p>◆<b>着地型商品の造成・販売</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県外の旅行会社へのセールス活動の展開 (H28~)</li> <li>・東部観光協議会による着地型商品造成・販売 (H28~)</li> <li>・旅行会社バスツアーへの助成 (H29~)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験型観光実施事業者への助成 (H28~)</li> <li>・土佐の観光創生塾参加事業者の支援 (H28~)</li> <li>・新型コロナウイルスの影響を受けている体験型観光事業者8団体への支援 (R2)</li> </ul> <p>◆<b>教育旅行の受入体制の強化、スポーツツーリズムの推進及びインバウンド対策の実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サイクリングイベント「安芸・空戸パシフィックライド」の開催 (H27~) ※R2は新型コロナウイルス拡大の影響で中止</li> <li>・民泊候補世帯への訪問活動 (H28~)</li> <li>・教育旅行素材集の作成 (H30)</li> <li>・英語・繁体字版ホームページ作成 (R2)</li> <li>・訪日グローバルキャンペーン等に対応したコンテンツ造成事業への参画によるインバウンド向けコンテンツの造成・磨き上げ (R2)</li> </ul> <p><b>&lt;主な成果&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆民泊登録世帯数 H28:119軒 → R元.6月:257軒</li> <li>◆パシフィックライド出走者 H28: 314名 → R元:469名</li> </ul> <p><b>&lt;課題&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東部観光協議会の組織体制の強化と関係団体との連携強化</li> <li>・安芸地域ならではの周遊・滞在型の商品開発と磨き上げ</li> <li>・情報発信力のさらなる強化</li> </ul>

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆東部観光協議会の組織体制の強化と関係団体との連携	東部観光協議会の組織体制の強化				
	●(一社)高知県東部観光協議会：マーケティング及びマネジメント機能の強化、観光地域づくりのノウハウの習得、県版地域おこし協力隊制度を活用した人材確保				
	東部広域観光振興計画の実施	東部広域観光振興計画の更新・実施			
	●(一社)高知県東部観光協議会：マーケティング調査結果を踏まえた現状分析、対応策の検討及び計画の見直し・更新				
	東部観光関係団体間の連携強化				
●(一社)高知県東部観光協議会、市町村、観光協会等：東部観光協議会と9市町村、観光協会等との連携強化及び役割分担の明確化					
◆戦略的な広報・PR活動の展開	戦略的な広報・PR活動の展開				
●(一社)高知県東部観光協議会：旅行エージェント、マスコミ等への広報活動の展開、ホームページやパンフレット、SNS等による観光情報の発信強化					
◆着地型商品の造成・販売	着地型商品の造成・磨き上げ・販売				
●(一社)高知県東部観光協議会、観光協会等、地域団体： マーケティング調査の分析、東部地域全体での情報共有、土佐の観光創生塾の受講等を通じた着地型商品づくり（特に周遊・滞在型の商品）、商談会への出展・旅行会社へのセールス					
●県（地域本部等）：各種アドバイザーや土佐の観光創生塾等のセミナーの紹介					
◆教育旅行の受入体制の強化、スポーツツーリズムの推進及びインバウンド対策の実施	教育旅行の推進				
	●市町村、(一社)高知県東部観光協議会：民泊登録依頼のための候補世帯への訪問、教育旅行の受入				
	●民間事業者等：体験プログラムの造成・磨き上げ				
	サイクリングによる東部観光の実践				
	●市町村、地域団体、民間事業者：体験プログラムの検討・磨き上げ・受入（先進地視察、モニターツアーの実施、受入態勢の整備）				
●(一社)高知県東部観光協議会：マーケティング調査の分析、戦略の策定・共有、体験プログラム実施者の支援					
●県（地域本部等）：各種アドバイザーや土佐の観光創生塾等のセミナーの紹介					
インバウンド対策の実施					
●(一社)高知県東部観光協議会：国外におけるセールス活動、商談会への出展、マーケティング調査の分析、戦略の策定・共有、ホームページ及びガイドブック等の多言語化					
●県（地域本部等）：外国人対応研修等に関する情報提供					
【用語】・観光地域づくり法人（DMO）：地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、多様な関係者と協働しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定するとともに、戦略を着実に実施するための調整機能を備えた法人。観光庁が登録を所管。R2年4月から、登録基準の厳格化に伴い、名称を「日本版DMO」から「観光地域づくり法人（DMO）」に変更。					

修正後

安芸地域アクションプラン

高知県東部広域観光振興計画（第2期）策定（R4.3月総会にて正式策定見込）に伴い、同計画の現時点の案に沿って指標及び指標数値、これまでの主な動きの項目等を修正しています。（同計画は高知県東部観光協議会が策定 第2期：R4～R8年度）

AP名 (実施地域)	No.19 安芸地域の観光振興の推進 (安芸地域全域)
実施主体	◎(一社)高知県東部観光協議会、安芸広域市町村圏事務組合、市町村、観光協会等、地域団体、民間事業者
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	広域観光組織の基盤を整備し、情報発信、体験プログラムの磨き上げ、教育旅行の受入等を行うとともに、歴史や食、自然の組み合わせによる観光クラスターの整備を推進することで、安芸地域外からの誘客を増加させて地域経済の活性化を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
(1) 観光入込客数 (1～12月)	2,181,964人 (R元)	1,763,792人		2,225,601人
(2) 圏内宿泊者数 (1～12月)	154,542人 (R元)	93,572人		157,632人
(3) 圏内観光消費額 (1～12月)	3,526,972千円 (R元)	2,611,794千円		3,667,199千円

これまでの主な動き	
<p><b>&lt;これまでの取り組みの内容&gt;</b></p> <p>◆<b>ひがしこうち魅力創出の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験型観光実施事業者への助成（H28～）</li> <li>・日本遺産の活用、土佐の観光創生塾との連携等による着地型商品造成・磨き上げ支援（H29～）</li> <li>・四国運輸局事業の活用によるインバウンド向けコンテンツの造成・磨き上げ（R2）</li> <li>・観光地域づくり塾を活用したコンテンツ造成（R3～）</li> <li>・ひがしこうち「食」の開発事業の実施（R3～）</li> </ul> <p>◆<b>効果的な情報発信とセールスの強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページやSNS等での圏域の情報発信（H28～）</li> <li>・テレビや雑誌、WEB等メディアを活用した広報（H28～）</li> <li>・県内外のイベント等出展によるPR活動（H28～）</li> <li>・旅行会社へのセールス活動の展開（H28～）</li> <li>・広域観光ガイドブック「ひがしこうち」作成（H30～）</li> <li>・高知東部食プロジェクトによる周遊企画実施（R元～）</li> <li>・英語・繁体字版ホームページ作成（R2）</li> <li>・教育旅行用セールスツール(動画・素材集)の作成（R3）</li> <li>・サイクリングイベント「安芸・室戸パシフィックライド」の開催（H27～）※R2、R3はコロナ禍の影響で中止</li> </ul> <p>◆<b>下支える基盤整備の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(一社)高知県東部観光協議会設立（H27）</li> <li>・民泊候補世帯への訪問活動、受入研修実施（H28～）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織機能強化研修実施（先進地視察等：H30～）</li> <li>・日本版DMO登録（R元）</li> <li>・WEBシステムによるアンケート調査・分析（R元～）</li> <li>・ひがしこうちDMO形成に向けた観光戦略ワーキンググループ会議の開催（R2）</li> <li>・高知県観光地域づくり推進員の配置（R2～）</li> <li>・観光庁補助事業による二次交通情報データ整備（R3）</li> <li>・観光庁実証事業による宿泊者データ収集分析システム及びCRMシステム構築（R3）</li> <li>・広域観光振興計画（第2期）策定（R3）</li> </ul> <p><b>&lt;主な成果&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ホームページアクセス数 H29:71,753→R2:401,083</li> <li>◆パシフィックライド出走者 H28:314名→R元:469名</li> <li>◆民泊登録世帯数 H28:119軒→R元:257軒</li> </ul> <p><b>&lt;課題&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安芸地域ならではの周遊・滞在型の商品開発と磨き上げ</li> <li>・情報発信力のさらなる強化</li> <li>・観光客の多様なニーズに対する受入環境・体制整備</li> <li>・東部観光協議会の組織体制強化と関係団体との連携強化</li> </ul>

高知県東部広域観光振興計画（第2期）策定（R4.3月総会にて正式策定見入）に伴い、同計画の現時点の案に沿って「主な取り組み」の項目及びR4以降の行程表（青矢印の項目等）を修正しています。

（同計画は高知県東部観光協議会が策定 第2期：R4～R8年度）

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆ひがしこうち魅力創出の推進	<p><b>着地型商品の造成・磨き上げ・販売</b></p> <p><b>教育旅行の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●(一社)高知県東部観光協議会、観光協会等、地域団体、民間事業者等：土佐の観光創生塾の受講等を通じた着地型商品づくり（特に周遊・滞在型の商品）、教育旅行向け体験プログラムの造成・磨き上げ</li> </ul> <p><b>サイクリングによる東部観光の実践</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●市町村、地域団体、民間事業者：体験プログラムの検討・磨き上げ・受入</li> <li>●(一社)高知県東部観光協議会：体験プログラム実施者の支援</li> </ul>	<p><b>体験型観光の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●(一社)高知県東部観光協議会、市町村、観光協会等：助成金、県及び国事業等の活用による体験プログラムの造成・磨き上げ支援及びフォローアップ</li> </ul> <p><b>滞在型観光の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●(一社)高知県東部観光協議会：ターゲット・ニーズ・テーマに沿ったドルルートの造成、宿泊施設・二次交通・観光施設等を組み合わせた周遊促進商品の造成</li> </ul> <p><b>地元食材を活かした食観光の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●(一社)高知県東部観光協議会、地域団体：協議会の独自事業及び県事業等の活用によるご当地グルメ開発・磨き上げ支援</li> </ul>			
	<p><b>戦略的な広報・PR 活動の展開</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●(一社)高知県東部観光協議会：旅行会社、マスコミ等への広報活動の展開、ホームページやパンフレット、SNS 等による観光情報の発信強化</li> </ul> <p><b>着地型商品の造成・磨き上げ・販売</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●(一社)高知県東部観光協議会 商談会への出展・旅行会社へのセールス</li> </ul> <p><b>インバウンド対策の実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●(一社)高知県東部観光協議会：国外におけるセールス、商談会への出展、ホームページ及びガイドブック等の多言語化</li> </ul>	<p><b>WEB・SNS 等を活用した情報発信の強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●(一社)高知県東部観光協議会：協議会公式ホームページ及び SNS に掲載する情報（量・質）の磨き上げ、SNS 広告等を活用した情報発信</li> </ul> <p><b>旅行会社へのセールス強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●(一社)高知県東部観光協議会：教育旅行を中心とした商談会等出展・旅行会社への訪問セールス・提案の実施、セールス戦略の共有等</li> </ul> <p><b>ファミツアーによる情報発信の強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●(一社)高知県東部観光協議会：旅行会社、メディア等専門家に向けたファミツアーの実施、地域内関係者向けモニターツアーの実施等</li> </ul> <p><b>県内・着地側での情報発信の強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●(一社)高知県東部観光協議会：ガイドブック等の活用、県や広域で連携するイベントでの出展、物販PR イベントの実施等</li> </ul>			
	<p><b>東部観光協議会の組織体制の強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●(一社)高知県東部観光協議会：マーケティング及びマネジメント機能の強化、観光地づくりのノウハウの習得、県版地域おこし協力隊制度を活用した人材確保</li> </ul> <p><b>東部観光関係団体間の連携強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●(一社)高知県東部観光協議会、市町村、観光協会等：各組織間の連携強化及び役割分担の明確化</li> </ul> <p><b>広域観光振興計画の実施・更新</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●(一社)高知県東部観光協議会：マーケティング調査結果を踏まえた現状分析、対応策の検討及び計画の見直し・更新</li> </ul>	<p><b>マーケティング機能の強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●(一社)高知県東部観光協議会：観光客の行動やニーズなどをリアルタイムにとらえる仕組みの構築、各調査結果の分析等を魅力づくり・情報発信に活用及び戦略・戦術への反映、地域へのフィードバック等</li> </ul> <p><b>リピーター化と域内消費の促進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●(一社)高知県東部観光協議会：CRM アプリ（観光客等に地域の観光情報や買い物・体験ごとにポイントを提供するアプリ）導入・運用推進、アプリ会員の消費データ等顧客情報の蓄積及び同データを活用した取組実施</li> </ul> <p><b>受入環境・体制の整備強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●(一社)高知県東部観光協議会：国・県事業等との連携による観光の担い手確保・育成等ソフト整備支援、地域内の情報を集約する体制整備</li> <li>●市町村：国・県事業を活用した観光施設等の改修及びインフラ整備等</li> </ul> <p><b>広域観光の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●(一社)高知県東部観光協議会：広域観光振興計画の PDCA の状況を共有するワーキンググループの開催、インバウンドやサステナブル・ツーリズムの推進等に対して官民・各産業及び各地域等との連携強化</li> </ul>			
◆効果的な情報発信とセールスの強化					
◆下支えする基盤整備の推進					

修正前

安芸地域アクションプラン

分野

観光

<b>AP 名 (実施地域)</b>	<b>No.20 日本遺産を活用した中芸地域の活性化</b> (奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村)
<b>実施主体</b>	◎中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会、奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村、中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会
<b>AP への 位置づけ</b>	H21. 4月
<b>事業概要</b>	日本遺産認定を受けた魚梁瀬森林鉄道遺産やゆずロード等を活用し、中芸地域の交流人口の拡大や文化活動の促進を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R 元	R2	R5
中芸地域主要施設訪問者数	537,560 人 (H30)	539,718 人		550,000 人

これまでの主な動き

<これまでの取り組みの内容>

◆日本遺産を活用した地域の活性化及び交流人口の拡大

- ・「魚梁瀬森林鉄道」日本遺産推進協議会の設立 (H28)
- ・日本遺産認定 (H29)
- ・日本遺産魅力発信推進事業の実施 (H29～)
- ・日本遺産認定記念シンポジウムの開催 (H29)
- ・日本遺産のストーリーにちなんだ体験プログラムイベント「ゆず FeS」の開催 (H29～ 5回)
- ・中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会事務局発足 (H30)
- ・BS-TBS2018「日本遺産」シーズン3での全国放送 (H30)
- ・日本遺産シンポジウム「中芸みんなの日本遺産 2019」開催 (H30)
- ・ゆずりんてつイルミ 銀河鉄道の夜開催 (R 元)
- ・ゆずと林鉄 EXPO 開催 (R2)
- ・日本遺産協議会への産業振興アドバイザーの導入 (R2)

◆森林鉄道施設の保存及び活用策の検討

- ・ガイド育成 (H21～23)
- ・旧魚梁瀬森林鉄道施設保存活用計画策定協議会の設置 (H25)

- ・旧魚梁瀬森林鉄道施設保存活用計画の策定 (H27)
- ・重要文化財旧魚梁瀬森林鉄道施設保存管理活用委員会の開催 (H30～: 5回)
- ・案内看板の設置 (R 元: 5カ所)

<主な成果>

- ◆ゆず FeS 参加者数
- 第1回 17プログラム 161人
  - 第2回 22プログラム 268人
  - 第3回 22プログラム 156人
  - 第4回 11プログラム 96人
  - 第5回 18プログラム 104人

<課題>

- ・自走に向けた方向性の決定及び仕組みの構築
- ・拠点施設となるビジターセンターの整備
- ・訴求力あるイベントの企画及び情報発信・普及啓発のさらなる強化
- ・日本遺産関連の旅行ツアー商品の開発及びガイドの育成による受入体制の充実

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆日本遺産を活用した地域の活性化及び交流人口の拡大	<b>戦略の検討</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会： 戦略会議等による自走に向けた方向性（戦略）の検討</li> <li>●県（地域本部等）： 戦略策定等に関するアドバイスを取得するための産業振興アドバイザー等の活用提案、各種支援制度及び他の日本遺産の取り組みに関する情報提供</li> </ul>				
	<b>既存事業の磨き上げ、戦略に基づく事業の実施</b>				
◆森林鉄道施設の保存策の検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>●中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会： 既存事業の磨き上げ、戦略に基づく事業の実施、SNS等による情報発信、セミナー等の受講による受入体制の充実、観光創生塾等の受講及び(一社)高知県東部観光協議会と連携した旅行ツアー商品等の開発、全国ハーフサミットなど各種イベントの実施</li> <li>●奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村、中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会： 森林鉄道施設の活用など、中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会と連携した事業の実施</li> <li>●県（地域本部等）： 事業実施に関するアドバイスを取得するための産業振興アドバイザー等の活用提案、各種支援制度及び他地域に関する情報提供、(一社)高知県東部観光協議会などの関係機関への橋渡し</li> </ul>				
	<b>拠点施設整備の検討、整備計画の策定、整備</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会： 戦略会議等を通じた拠点施設の整備の検討・決定、整備計画の策定、部会WGでの施設整備内容の検討実施、施設整備、観光客の受け入れ、SNS等を活用した情報発信、定期的なイベントや企画展の開催</li> <li>●県（地域本部等）： 各種支援制度（補助金等）に関する情報提供、情報発信の方法やイベント開催などに関するアドバイスを取得するための産業振興アドバイザー等の活用提案、関係機関への橋渡し</li> </ul>				
<b>保存策の検討及び遺構の修復</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>●奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村、中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会： 重要文化財旧魚梁瀬森林鉄道施設保存管理活用推進委員会における保存策の検討、案内看板の設置によるPR、文化庁補助金等を活用した遺構の修復</li> <li>●県（地域本部等）： 委員会への参画によるアドバイス、各種支援制度及び他地域に関する情報提供、関係機関への橋渡し</li> </ul>					
<p>【用語】・日本遺産：地域の歴史的魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」として文化庁が認定するもの。ストーリーを語るうえで欠かせない魅力あふれる有形や無形の様々な文化財を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的とする。</p>					

<b>AP名 (実施地域)</b>	<b>No.20 日本遺産を活用した中芸地域の活性化</b> (奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村)
<b>実施主体</b>	◎中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会、奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村、中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会
<b>APへの位置づけ</b>	H21.4月
<b>事業概要</b>	日本遺産認定を受けた魚梁瀬森林鉄道遺産やゆずロード等を活用し、中芸地域の交流人口の拡大や文化活動の促進を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
中芸地域主要施設訪問者数	537,560人 (H30)	437,812人		550,000人

これまでの主な動き

<p><b>&lt;これまでの取り組みの内容&gt;</b></p> <p>◆<b>日本遺産を活用した地域の活性化及び交流人口の拡大</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「魚梁瀬森林鉄道」日本遺産推進協議会の設立 (H28)</li> <li>・日本遺産認定 (H29)</li> <li>・日本遺産魅力発信推進事業の実施 (H29～)</li> <li>・日本遺産認定記念シンポジウムの開催 (H29)</li> <li>・日本遺産のストーリーにちなんだ体験プログラムイベント「ゆず FeS」の開催 (H29～7回)</li> <li>・中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会事務局発足 (H30)</li> <li>・BS-TBS2018「日本遺産」シーズン3での全国放送 (H30)</li> <li>・日本遺産シンポジウム「中芸みんなの日本遺産 2019」開催 (H30)</li> <li>・ゆずりんてつイルミ 銀河鉄道の夜開催 (R元)</li> <li>・ゆずと林鉄 EXPO 開催 (R2～)</li> <li>・日本遺産協議会への産振アドバイザーの導入 (R2)</li> <li>・「第27回全国ハーブサミット in 中芸」開催 (R3)</li> <li>・日本遺産関連ツアーの造成 (R3)</li> <li>・再認定に向けた協議会体制の見直し (R3)</li> </ul> <p>◆<b>森林鉄道施設の保存及び活用策の検討</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイド育成 (H21～23)</li> <li>・旧魚梁瀬森林鉄道施設保存活用計画策定協議会の設置 (H25)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旧魚梁瀬森林鉄道施設保存活用計画の策 (H27)</li> <li>・重要文化財旧魚梁瀬森林鉄道施設保存管理活用委員会の開催 (H30～: 5回)</li> <li>・案内看板の設置 (R元: 5カ所)</li> <li>・ガイド養成講座の実施 (R3: 全5回)</li> </ul> <p><b>&lt;主な成果&gt;</b></p> <p>◆<b>ゆず FeS 参加者数</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回 17プログラム 161人</li> <li>第2回 22プログラム 268人</li> <li>第3回 22プログラム 156人</li> <li>第4回 11プログラム 96人</li> <li>第5回 18プログラム 104人</li> <li>第6回 9プログラム 63人</li> <li>第7回 18プログラム 337人</li> </ul> <p>◆<b>ゆず林鉄 EXPO 参加者数</b></p> <p>R2: 625人</p> <p><b>&lt;課題&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自走に向けた方向性の決定及び仕組みの構築</li> <li>・拠点施設となるビジターセンターの整備</li> <li>・訴求力あるイベントの企画及び情報発信・普及啓発のさらなる強化</li> <li>・ガイドの育成による受入体制の充実</li> <li>・再認定に向けた協議会体制の見直しと強化</li> </ul>
--	---

## 第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
<p>◆日本遺産を活用した地域の活性化及び交流人口の拡大</p>	<p><b>戦略の策定及び再認定に向けた体制の構築・強化</b></p>			<p><b>DMO 設立に向けた取組の実施</b></p>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会： 戦略会議等による自走に向けた方向性（戦略）の検討・策定、協議会体制の見直し（日本遺産推進室の設置）、DMO 立ち上げに向けた検討</li> <li>●県（地域本部等）： 戦略策定等に関するアドバイスを得るための産振アドバイザー等の活用提案、各種支援制度及び他の日本遺産の取り組みに関する情報提供</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>●中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会： DMO 設立準備、関係機関との調整</li> <li>●県（地域本部等）： 戦略策定等に関するアドバイスを得るための産振アドバイザー等の活用提案、各種支援制度及び他の日本遺産の取り組みに関する情報提供</li> </ul>	
	<p><b>既存事業の磨き上げ、戦略に基づく事業の実施</b></p>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>●中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会： 既存事業の磨き上げ、戦略に基づく事業の実施、SNS 等による情報発信、セミナー等の受講による受入体制の充実、観光創生塾等の受講及び(一社)高知県東部観光協議会と連携した旅行ツアー商品等の開発、旅行会社への売り込み、関係町村との連携によるゆず林鉄 EXPO など各種イベントの実施</li> <li>●奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村、中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会： 町村独自のイベントの開催、森林鉄道施設の活用など、中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会と連携した事業の実施</li> <li>●県（地域本部等）： 事業実施に関するアドバイスを得るための産振アドバイザー等の活用提案、各種支援制度及び他地域に関する情報提供、(一社)高知県東部観光協議会などの関係機関への橋渡し</li> </ul>					
<p><b>拠点施設整備の検討、整備計画の策定、整備</b></p>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>●中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会： 戦略会議等を通じた拠点施設の整備の検討・決定、整備計画の策定、部会 WG での施設整備内容の検討実施、施設整備、観光客の受け入れ、SNS 等を活用した情報発信、定期的なイベントや企画展の開催</li> <li>●県（地域本部等）： 各種支援制度（補助金等）に関する情報提供、情報発信の方法やイベント開催などに関するアドバイスを得るための産振アドバイザー等の活用提案、関係機関への橋渡し</li> </ul>					
<p>◆森林鉄道施設の保存策の検討</p>	<p><b>保存策の検討及び遺構の修復</b></p>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村、中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会： 重要文化財旧魚梁瀬森林鉄道施設保存管理活用推進委員会における保存策の検討、案内看板の設置による PR、文化庁補助金等を活用した遺構の修復</li> <li>●県（地域本部等）： 委員会への参画によるアドバイス、各種支援制度及び他地域に関する情報提供、関係機関への橋渡し</li> </ul>				
<p>【用語】・日本遺産：地域の歴史的魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」として文化庁が認定するもの。ストーリーを語るうえで欠かせない魅力あふれる有形や無形の様々な文化財を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的とする。</p>					

<b>AP名 (実施地域)</b>	<b>No.21 室戸市の観光資源を生かした交流人口の拡大・地域振興</b> (室戸市)
<b>実施主体</b>	◎室戸市、◎(一社)室戸市観光協会、室戸ジオパーク推進協議会、日本ドルフィンセンター、室戸黒潮協同組合、(一社)うみ路、NPO 法人日本ウミガメ協議会、土佐備長炭窯元炭玄、民間事業者
<b>APへの位置づけ</b>	H21.4月
<b>事業概要</b>	世界ジオパークに認定された室戸ジオパークやむろと廃校水族館、海の駅とろむなどの観光資源の魅力度を高めるとともに、各施設の連携強化により周遊・滞在型観光への転換を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
(1)室戸市主要施設訪問者数 (1~12月)	805千人 (H30)	812千人		850千人
(2)室戸世界ジオパークセンター 来館者数	87,318人 (H30)	68,782人		90,000人
(3)室戸ドルフィンセンター来場者数	27,693人 (H30)	26,650人		30,000人
(4)むろと廃校水族館来館者数*	168,333人 (H30)	150,210人		121,200人
(5)MUROTObase55(旧ライダーズ イン室戸)利用者数	—	128人 (R元.2月開館)		6,000人

※出発点に入館者減少率(他の水族館の入館者数推移から算出)を乗じて算定

### これまでの主な動き

<p><b>&lt;これまでの取り組みの内容&gt;</b></p> <p>◆<b>周遊型・滞在型観光の強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・室戸市クラスター協議会による周遊コース等作成(H28~)</li> <li>・ぐるっとむろとスタンプラリー実施(H29~)</li> <li>・県観光アドバイザーによる観光勉強会開催(R2)</li> </ul> <p>◆<b>誘客促進</b></p> <p>&lt;室戸世界ジオパーク&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本ジオパークネットワーク(JGN)認定(H20)</li> <li>・世界ジオパークネットワーク(GGN)認定(H23)</li> <li>・室戸世界ジオパークセンターオープン(H27)</li> <li>・接遇等各種ガイド研修の実施(H28~)</li> <li>・JGN再認定(H30)</li> <li>・GGN再認定(R元)</li> </ul> <p>&lt;海の駅とろむ&gt;</p> <p>(室戸ドルフィンセンター)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・設備の充実(看板、浮桟橋、倉庫等)(H21~23)</li> <li>・陸上施設の整備(H24)及び補助プールの整備(H25)</li> </ul>	<p>&lt;むろと廃校水族館&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・むろと廃校水族館オープン(H30)</li> <li>・屋外プールへの日除設置(R2) →観光拠点等整備事業費補助金活用</li> </ul> <p>&lt;MUROTObase55(旧ライダーズイン室戸)&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・再整備に向けた基本設計・実施設計の策定(H30~R元)</li> <li>・施設整備(R元)</li> </ul> <p><b>&lt;主な成果&gt;</b></p> <p>◆むろと廃校水族館来館者数 H30:168,333人→R元:150,210人</p> <p><b>&lt;課題&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設間の連携による周遊型、滞在型観光への転換</li> <li>・体験メニューの開発・磨き上げ</li> <li>・教育旅行の受入拡大</li> <li>・室戸世界ジオパークセンター、室戸ドルフィンの来館者数増</li> <li>・ジオパークガイドの人材確保及びツアーの磨き上げ</li> <li>・旧椎名小学校体育館利活用の検討</li> <li>・室戸岬魚港背後地活用の検討</li> </ul>
---	--

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆周遊型・滞在型観光の強化	<p><b>旅行プランの造成、情報発信、営業の強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●室戸市、(一社)室戸市観光協会：周遊型・滞在型観光に向けた関係者間での協議の場の設置、周遊・滞在につながる旅行プランの造成のためのモニター実施などによる市場調査、旅行プランの造成、情報発信、旅行業者への売り込み、MUROTObase55を起点とした周遊・滞在を担当する地域おこし協力隊の雇用</li> <li>●県（地域本部等）：関係者間協議への参画及び提案、周遊につながる旅行プラン造成のための産業振興アドバイザー等の活用提案、商談会等への出展について(一社)高知県東部観光協議会や高知県観光コンベンション協会との調整、各種情報提供</li> </ul>				
◆誘客促進 室戸世界ジオパーク	<p><b>企画展・イベントの開催、既存ツアーの磨き上げ、新ツアーの造成、教育旅行受入、ガイド養成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●室戸市、室戸ジオパーク推進協議会：企画展・イベントの開催、観光創生塾等のセミナー受講、ツアーガイド養成講座等の開催、各種ツアーなど地域情報の発信</li> <li>●県（地域本部等）：情報発信、観光創生塾等のセミナー受講の提案、各種支援策の情報提供、施設間の連携に向けた提案</li> </ul>				
海の駅とろむ	<p><b>体験プログラムの造成、既存プログラムの磨き上げ、PRの強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●日本ドルフィンセンター、室戸黒潮協同組合：新規プログラムの開発、体験プログラムの磨き上げ、教育旅行の受入、誘客促進に向けた施設間の連携</li> <li>●県（地域本部等）：観光創生塾の受講の提案、県外誘客に向けた東部観光協議会や高知県観光コンベンション協会との調整、施設間の連携に向けた提案、各種情報提供、SNSでの発信、マスコミを通じたPR、商談会への参加</li> </ul>				
むろと廃校水族館	<p><b>体験プログラムの磨き上げ、開発、PR強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●むろと廃校水族館：体験プログラムの磨き上げ・開発、各シーズンのイベントの開催、SNS等での情報発信、誘客促進に向けた施設間の連携</li> <li>●県（地域本部等）：情報発信支援、各種支援策の情報提供、施設間の連携に向けた提案</li> </ul>				
MUROTObase55(旧ライダーズイン室戸)	<p><b>運営・広報・営業力の強化、周辺施設と連携した誘客の促進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●土佐備長炭窯元炭玄（指定管理者）、室戸市：HP、SNS等の各種媒体を活用した高知県内外へのPR、誘客促進に向けた施設間の連携</li> <li>●県（地域本部等）：情報発信支援、施設間の連携に向けた提案</li> </ul>				
<p>【用語】・日本ジオパークネットワーク（JGN）：日本国内のジオパークとジオパークをめざす地域をサポートする、ジオパークのネットワークの軸となる特定非営利活動法人（NPO法人）</p> <p>・世界ジオパークネットワーク（GGN）：地質的遺産や地域の文化、環境の向上をめざし、2004年ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）の支援を受けて誕生したネットワーク</p>					

<b>AP名 (実施地域)</b>	<b>No.21 室戸市の観光資源を生かした交流人口の拡大・地域振興</b> (室戸市)
<b>実施主体</b>	◎室戸市、◎(一社)室戸市観光協会、室戸ジオパーク推進協議会、(株)日本ドルフィンセンター、 <del>室戸黒潮協同組合</del> (一社)うみ路、NPO 法人日本ウミガメ協議会、土佐備長炭窯元炭玄、民間事業者
<b>APへの位置づけ</b>	H21.4月
<b>事業概要</b>	世界ジオパークに認定された室戸ジオパークやむろと廃校水族館、海の駅とろむなどの観光資源の魅力度を高めるとともに、各施設の連携強化により周遊・滞在型観光への転換を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
(1)室戸市主要施設訪問者数 (1~12月)	805千人 (H30)	506千人		850千人
(2)室戸世界ジオパークセンター 来館者数	87,318人 (H30)	41,692人		90,000人
(3)室戸ドルフィンセンター来場者数	27,693人 (H30)	15,652人		30,000人
(4)むろと廃校水族館来館者数*	168,333人 (H30)	68,776人		121,200人
(5)MUROTObase55 (旧ライダーズ イン室戸) 利用者数	—	1,785人		6,000人

※出発点に入館者減少率（他の水族館の入館者数推移から算出）を乗じて算定

これまでの主な動き

<p><b>&lt;これまでの取り組みの内容&gt;</b></p> <p>◆周遊型・滞在型観光の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・室戸市クラスター協議会による周遊コース等作成(H28~)</li> <li>・ぐるっとむろとスタンプラリー実施 (H29~)</li> <li>・県観光アドバイザーによる観光勉強会開催 (R2.10月、R3.8月)</li> </ul> <p>◆誘客促進</p> <p>&lt;室戸世界ジオパーク&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本ジオパークネットワーク (JGN) 認定 (H20.12月)</li> <li>・世界ジオパークネットワーク (GGN) 認定 (H23.9月)</li> <li>・室戸世界ジオパークセンターオープン (H27.4月)</li> <li>・接遇等各種ガイド研修の実施 (H28~)</li> <li>・JGN再認定 (H30.9月)</li> <li>・GGN再認定 (R2.1月)</li> </ul> <p>&lt;海の駅とろむ&gt;</p> <p>(室戸ドルフィンセンター)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・設備の充実 (看板、浮桟橋、倉庫等) (H21~23)</li> <li>・陸上施設の整備 (H24) 及び補助プールの整備 (H25)</li> </ul>	<p>&lt;むろと廃校水族館&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・むろと廃校水族館オープン (H30.4月)</li> <li>・屋外プールへの日除設置 (R2.6月)</li> <li>→観光拠点等整備事業費補助金活用</li> </ul> <p>&lt;MUROTObase55 (旧ライダーズイン室戸) &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><del>再整備に向けた基本設計・実施設計(H30~R元)</del></li> <li>施設整備 MUROTObase55 オープン (R元2.2月)</li> </ul> <p><b>&lt;主な成果&gt;</b></p> <p>◆むろと廃校水族館来館者数</p> <p>H30 : 168,333人 → R元 : 150,210人</p> <p><b>&lt;課題&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設間の連携による周遊型、滞在型観光への転換</li> <li>・体験メニューの開発・磨き上げ・教育旅行の受入拡大</li> <li>・<del>室戸世界ジオパークセンター、室戸ドルフィン</del>各施設の来館者数等の増</li> <li>・ジオパークガイドの人材確保及びツアーの磨き上げ</li> <li><del>相模名小学校体育館利活用の検討</del></li> <li><del>室戸岬漁港背後地活用の検討</del></li> </ul>
--	---

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆周遊型・滞在型観光の強化	<p><b>旅行プランの造成、情報発信、営業の強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●室戸市、(一社)室戸市観光協会：周遊型・滞在型観光に向けた関係者間での協議の場の設置、周遊・滞在につながる旅行プランの造成のためのモニター実施などによる市場調査、旅行プランの造成、情報発信、旅行業者への売り込み、MUROTObase55 を起点とした周遊・滞在を担当する地域おこし協力隊の雇用</li> <li>●県（地域本部等）：関係者間協議への参画及び提案、周遊につながる旅行プラン造成のための産業振興アドバイザー等の活用提案、商談会等への出展について(一社)高知県東部観光協議会や高知県観光コンベンション協会との調整、各種情報提供</li> </ul>				
◆誘客促進 室戸世界ジオパーク	<p><b>企画展・イベントの開催、既存ツアーの磨き上げ、新ツアーの造成、教育旅行受入、ガイド養成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●室戸市、室戸ジオパーク推進協議会：企画展・イベントの開催、観光創生塾等のセミナー受講、ツアーガイド養成講座等の開催、各種ツアーなど地域情報の発信</li> <li>●県（地域本部等）：情報発信、観光創生塾等のセミナー受講の提案、各種支援策の情報提供、施設間の連携に向けた提案</li> </ul>				
海の駅とろむ	<p><b>体験プログラムの造成、既存プログラムの磨き上げ、PR の強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●(株)日本ドルフィンセンター <del>室戸黒潮協同組合</del> 指定管理者（未定）：新規プログラムの開発、体験プログラムの磨き上げ、教育旅行の受入、誘客促進に向けた施設間の連携</li> <li>●県（地域本部等）：観光創生塾の受講の提案、県外誘客に向けた東部観光協議会や高知県観光コンベンション協会との調整、施設間の連携に向けた提案、各種情報提供、SNS での発信、マスコミを通じた PR、商談会への参加</li> </ul>				
むろと廃校水族館	<p><b>体験プログラムの磨き上げ、開発、PR 強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●むろと廃校水族館：体験プログラムの磨き上げ・開発、各シーズンのイベントの開催、SNS 等での情報発信、誘客促進に向けた施設間の連携</li> <li>●県（地域本部等）：情報発信支援、各種支援策の情報提供、施設間の連携に向けた提案</li> </ul>				
MUROTObase55(旧ライダーズイン室戸)	<p><b>運営・広報・営業力の強化、周辺施設と連携した誘客の促進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●土佐備長炭窯元炭玄（指定管理者）、室戸市：HP、SNS 等の各種媒体を活用した高知県内外への PR、誘客促進に向けた施設間の連携</li> <li>●県（地域本部等）：情報発信支援、施設間の連携に向けた提案</li> </ul>				
<p>【用語】・日本ジオパークネットワーク（JGN）：日本国内のジオパークとジオパークをめざす地域をサポートする、ジオパークのネットワークの軸となる特定非営利活動法人（NPO 法人）</p> <p>・世界ジオパークネットワーク（GGN）：地質的遺産や地域の文化、環境の向上をめざし、2004 年ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）の支援を受けて誕生したネットワーク</p>					

修正前

安芸地域アクションプラン

分野

観光

<b>AP名 (実施地域)</b>	<b>No.25 安田川アユおどる清流キャンプ場の再整備による交流人口の拡大と地域の活性化</b> (安田町)
<b>実施主体</b>	◎安田町
<b>APへの 位置づけ</b>	H31.4月
<b>事業概要</b>	安田町の自然・体験型観光の拠点施設としてキャンプ場を再整備し、安田川をはじめとする地域資源を活用したアクティビティの強化や季節毎に特色あるイベントの開催、情報発信や施設の管理運営手法の見直しなどを行い、利用客数の大幅な増加を目指すほか、キャンプ場利用者への周辺施設への誘客や地域食材の利活用を推進し、交流人口の拡大と地域の活性化につなげる。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
キャンプ場利用者数	2,527人 (H30)	3,201人		6,000人

これまでの主な動き

これまでの主な動き	
<p><b>&lt;これまでの取り組みの内容&gt;</b></p> <p>◆<b>キャンプ場の再整備による磨き上げ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>産業振興アドバイザー制度を活用した現状と課題の洗い出し (H30: 1回)</li> <li>観光拠点等整備事業費補助金を活用した基本計画の策定 (H30)</li> <li>観光拠点等整備事業費補助金を活用した実施設計の作成 (R元)</li> <li>地域観光振興交付金等を活用した改修工事の実施 (R2)</li> <li>安田川アユおどる清流キャンプ場設置及び管理に関する条例の制定 (R2)</li> </ul> <p>◆<b>利用客数アップに向けた仕組みづくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>土佐の観光創生塾の受講を通じたJAや安田川漁協との連携による体験メニューの検討 (R元)</li> <li>日本遺産関連イベント「ゆず FeS」の体験プログラムとしてキャンプ場で体験メニューを実施 清流安田川のサカナ観察と川エビ漁体験 (R元) 親子ピザ焼き体験 (R元)</li> </ul>	<p><b>&lt;主な成果&gt;</b></p> <p>◆<b>キャンプ場の再整備による磨き上げ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「安田川アユおどる清流キャンプ場等再整備基本計画」の策定 (H30)</li> <li>「安田川アユおどる清流キャンプ場整備工事設計」の作成 (R元)</li> </ul> <p>◆<b>「ゆず FeS」を通じた体験メニューの利用者数</b></p> <p>清流安田川のサカナ観察と川エビ漁体験: 18名 親子ピザ焼き体験: 7名</p> <p><b>&lt;課題&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>管理、運営体制の見直し及び顧客サービスの向上</li> <li>イベント開催や体験メニューの造成等による集客力アップ</li> <li>周辺観光施設等との連携による相互誘客の仕組みづくり</li> </ul>

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆キャンプ場の再整備による磨き上げ	<b>キャンプ場再整備</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●安田町：国及び県の支援制度を活用した施設の再整備</li> <li>●県（地域本部等）：各種支援制度（補助金等）に関する情報提供、関係機関への橋渡し</li> </ul>	<b>キャンプ場リニューアルオープン</b>			
	<b>管理運営体制の見直し</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●安田町：アウトドア専門家や事業者等と連携した顧客ニーズに沿った管理・運営手法の導入、新規サービスの提供、スタッフの人材育成</li> <li>●県（地域本部等）：各種支援制度（補助金等）に関する情報提供、関係機関への橋渡し</li> </ul>				
◆利用客数アップに向けた仕組みづくり	<b>実施内容の検討</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●安田町：イベント内容の検討、体験メニュー等の内容検討、情報発信方法等の検討</li> <li>●県（地域本部等）：各種支援制度（補助金等）に関する情報提供、関係機関への橋渡し</li> </ul>	<b>集客に向けた取り組みの実践及び満足度向上に向けた改善策の実施</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●安田町：季節毎に特色あるイベントの企画・実施、キャンプ場を拠点とした体験メニューの充実及び定番化、SNSを活用した情報発信及びHP作成、メルマガ配信によるファンの獲得、イベント及び体験メニューの継続実施に向けた仕組みづくり、参加者からの評価を基にした改善策の検討・実施</li> <li>●県（地域本部等）：各種支援制度（補助金等）に関する情報提供、関係機関への橋渡し</li> </ul>			
	<b>連携手法の検討・準備</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●安田町：周辺の施設との連携内容の検討及び調整、地域食材の提供の検討・準備</li> <li>●県（地域本部等）：各種支援制度及び他地域事例に関する情報提供、関係機関への橋渡し</li> </ul>	<b>周辺施設との連携による相乗効果の発揮</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●安田町：周辺施設との連携開始による新たなサービスの提供、誘客に向けた共同PRの実施、地域食材の提供開始によるサービス向上、連携の継続・発展に向けた仕組みづくり</li> <li>●県（地域本部等）：各種支援制度（補助金等含む）及び他地域の事例に関する情報提供、関係機関への橋渡し</li> </ul>			

<b>AP名 (実施地域)</b>	<b>No.25 安田川アユおどる清流キャンプ場の再整備による交流人口の拡大と地域の活性化</b> (安田町)
<b>実施主体</b>	◎安田町
<b>APへの 位置づけ</b>	H31.4月
<b>事業概要</b>	安田町の自然・体験型観光の拠点施設としてキャンプ場を再整備し、安田川をはじめとする地域資源を活用したアクティビティの強化や季節毎に特色あるイベントの開催、情報発信や施設の管理運営手法の見直しなどを行い、利用客数の大幅な増加を目指すほか、キャンプ場利用者への周辺施設への誘客や地域食材の利活用を推進し、交流人口の拡大と地域の活性化につなげる。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
キャンプ場利用者数	2,527人 (H30)	53人		6,000人

これまでの主な動き

<これまでの取り組みの内容>

◆キャンプ場の再整備による磨き上げ

- ・産業振興アドバイザー制度を活用した現状と課題の洗い出し (H30: 1回)
- ・観光拠点等整備事業費補助金を活用した基本計画の策定 (H30)
- ・観光拠点等整備事業費補助金を活用した実施設計の作成 (R元)
- ・地域観光振興交付金等を活用した改修工事の実施 (R2)
- ・安田川アユおどる清流キャンプ場設置及び管理に関する条例の制定 (R2)
- ・安田川アユおどる清流キャンプ場リニューアルオープン (R3)

◆利用客数アップに向けた仕組みづくり

- ・土佐の観光創生塾の受講を通じたJAや安田川漁協との連携による体験メニューの検討 (R元)
- ・日本遺産関連イベント「ゆず FeS」の体験プログラムとしてキャンプ場で体験メニューを実施  
清流安田川のサカナ観察と川エビ漁体験 (R元)  
親子ピザ焼き体験 (R元)  
田中ケンのオージービーフ BBQ 講座 (R3)
- ・専用 HP の立ち上げ・パンフレット刷新 (R3)

- ・味工房じねんとの連携に向けた協議 (R3)

- ・コールマンパートナーフィールドイベント第1弾実施 (キャンプなんでも相談・テントの設置、たたみ方講習) (R3)
- ・Xmas イベントの開催 (R3)

<主な成果>

◆キャンプ場の再整備による磨き上げ

- ・「安田川アユおどる清流キャンプ場等再整備基本計画」の策定 (H30)
- ・「安田川アユおどる清流キャンプ場整備工事設計」の作成 (R元)
- ・安田川アユおどる清流キャンプ場リニューアルオープン (R3)
- ・コールマンパートナーフィールドイベント第1弾実施(R3)

◆「ゆず FeS」を通じた体験メニューの利用者数

- 清流安田川のサカナ観察と川エビ漁体験：18名
- 親子ピザ焼き体験：7名
- 田中ケンのオージービーフ BBQ 講座：10組 22名

<課題>

- ・顧客サービスの向上
- ・イベント開催や体験メニューの造成等による集客力アップ
- ・周辺観光施設等との連携による相互誘客の仕組みづくり
- ・周辺施設との連携による地域食材の提供

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆キャンプ場の再整備による磨き上げ	<b>キャンプ場再整備</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●安田町：国及び県の支援制度を活用した施設の再整備</li> <li>●県（地域本部等）：各種支援制度（補助金等）に関する情報提供、関係機関への橋渡し</li> </ul>	<b>キャンプ場リニューアルオープン</b>			
	<b>顧客サービスの向上</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●安田町：アウトドア専門家や事業者等と連携した顧客ニーズに沿った管理・運営手法の導入、新規サービスの提供、スタッフの人材育成</li> <li>●県（地域本部等）：各種支援制度（補助金等）に関する情報提供、関係機関への橋渡し</li> </ul>				
◆利用客数アップに向けた仕組みづくり	<b>実施内容の検討</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●安田町：イベント内容の検討、体験メニュー等の内容検討、情報発信方法等の検討</li> <li>●県（地域本部等）：各種支援制度（補助金等）に関する情報提供、関係機関への橋渡し</li> </ul>	<b>集客に向けた取り組みの実践及び満足度向上に向けた改善策の実施</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●安田町：季節毎に特色あるイベントの企画・実施、キャンプ場を拠点とした体験メニューの充実及び定番化、SNSを活用した情報発信及びHP作成、メルマガ配信によるファンの獲得、イベント及び体験メニューの継続実施に向けた仕組みづくり、参加者からの評価を基にした改善策の検討・実施</li> <li>●県（地域本部等）：各種支援制度（補助金等）に関する情報提供、関係機関への橋渡し</li> </ul>			
	<b>連携手法の検討・準備</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●安田町：周辺の施設との連携内容の検討及び調整、地域食材の提供の検討・準備</li> <li>●県（地域本部等）：各種支援制度及び他地域事例に関する情報提供、関係機関への橋渡し</li> </ul>	<b>周辺施設との連携による相乗効果の発揮</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●安田町：周辺施設との連携開始による新たなサービスの提供、誘客に向けた共同PRの実施、地域食材の提供開始によるサービス向上、連携の継続・発展に向けた仕組みづくり</li> <li>●県（地域本部等）：各種支援制度（補助金等含む）及び他地域の事例に関する情報提供、関係機関への橋渡し</li> </ul>			